

FD 推進助成（甲）事業〔学部 FD 推進事業〕

I. 文学部

令和5年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」申請書

令和 5 年 1 月 20 日提出

申請者氏名 (学部長申請)	文学部長 矢部 健太郎
課題名	カリキュラムおよび授業改善の基本方針検討

事業の概要（計画期間全体）（各400字程度）

〇目的：現状認識を踏まえた事業の目的
文学部独自の授業評価アンケートを行う。平成31年度／令和元年度において、平成25～30年度に継続的に行ってきた文学部独自のアンケートデータの集計を行った。それを踏まえて各学科および文学部全体の状況分析を行い、過去五ヶ年のFD事業の成果や経年的傾向を確認した。現在各学科においてカリキュラム改定に取り組んでいる最中であり、その成果や影響について継続的な調査が必要とされることから、さらに令和2年度から三ヶ年、文学部独自の授業評価アンケートを継続して行った。今年度も調査を継続し、過去のアンケート結果を踏まえて、総括的な分析を業者に依頼する。調査・分析結果は学部内で共有し、カリキュラムおよび授業改善を具体的におこなうための検討材料とする。

〇内容：目的を達成するために、どのような事業を実施するのか。
①文学部独自のアンケート（「FDアンケート」の実施） ②経年アンケート結果を含む総括分析 ③研修会の実施

〇計画：どのような計画で、当該事業を実施するのか。
①アンケート：前期中の5-6月頃にアンケート項目や実施方法を文学部教務委員会で審議・確定する。継続的なデータ分析を目的とするため基本的にはこれまでのアンケート項目を引き継ぐが、現状に即して文言の修正や新たな項目を付加する可能性がある。後期開始時の9-10月頃にはアンケートを実施し、そのデータ分析を業者に委託して行ってもらおう。②経年アンケート結果を含む総括分析：業者には、令和5年度のアンケート結果に加え、経年の結果を含めた総括分析を依頼する。③研修会：分析データに基づいて、令和5年度内に研修会を実施する。また、アンケート調査によって浮かび上がった本学独自の状況を、戦後日本の大学教育をめぐる歴史的状況に照らし合わせて考察する。特に、人文系の学士課程教育にどのような教育が求められているのか、掘り下げて考察したい。なお、予算はアンケートの委託費として800千円（業者によるデータ分析結果報告・研修会費用を含む）を申請する。

〇点検・評価：本事業の実施状況並びに成果をどのように点検・評価するのか。
本事業の成果は、研修会を通じた調査結果の学部内共有によって実際にどれくらいカリキュラムや授業の改善が成されたかによって点検・評価される。カリキュラムや授業改善の程度は、過去に実施されたアンケートのデータに基づいて学生のカリキュラム満足度等の経年比較を行うことによって測定されることになる。8ヶ年の総括分析によって明らかになった各学科の問題点にどう取り組み、どう改善策を講じていくかについて、策を検討し、成果を現実化・具体化することに努めていきたい。

〇改善・期待される効果：今後の当該学部の教授法や授業改善にどのように役立つことが想定されるか。具体的に記述してください。
①アンケート：各教員が実感として持っているカリキュラムや授業の質（長所ならびに問題点）を、授業を受ける学生の視点および数量的データとして比較分析ができる。この作業によって、教員側からは気づきにくい問題点や変更の必要な点が明らかになるきっかけともなる。また、継続的にデータの蓄積をしていくことによって、一貫して見られる傾向が判明するであろうし、学生側の変化しつつある要望なども浮かび上がる可能性がある。
②研修会：授業改善のための具体的な課題を学部内で広く共有する。また、日本の大学（特に人文科学系の私立大学）の学士課程教育が直面している課題に照らし合わせて、本学の抱える問題が明らかにされることで、カリキュラムおよび授業改善のための検討課題がより明確かつ具体的になっていく。

〇汎用性（波及効果）：成果を全学で共有することで、当該学部学科を超えて、本学学士課程教育全体または本学教員の職能改善にどのような効果をもたらすことが想定されるか。
文学部独自アンケートの質問項目は学部固有の内容を含んだものが多い。しかし、アンケートを通じて、カリキュラムや授業改善のための材料を獲得するという本事業の形態や成果は、全学で共有できるものがあると考え。特に、学生の意見を踏まえながら授業改善を行っていくこと、そして学部のポリシーを教員と学生との間で共有することなどの点は、全学的に共有性が高い事柄であると考え。

〇経費の妥当性・必要性：教育研究費支出、人件費支出、設備関係支出のそれぞれについて、申請する事業計画と関連して妥当性と必要性を記述してください。
本事業の支出は、アンケートの委託費からなる教育研究費支出のみである。昨年度よりアンケートをK-SMAPYIIを通じたオンラインアンケートとしたところ、令和2年度の回答数は1000件程度、令和3年度は800件程度、令和4年度は600件程度となり、平成30年度までのアンケート回答数1200件程度（配布1500件）を下回ったが、アンケート結果の精度を高めるためにデータ数を一定に保つ必要があるため、回答数をあげていくことを目標とする。令和5年度は、経年アンケート結果の総括分析を含むため、800千円程度の支出が見込まれる。

事業の実務担当者 (教員)	スピアーズ スコット（文学部外国語文化学科／准教授）
------------------	----------------------------

令和5年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」に係る所要経費内訳明細表

課 題 名	カリキュラムおよび授業改善の基本方針検討
-------	----------------------

教育研究経費支出内訳			
小 科 目	積 算 内 訳		
	主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
消 耗 品 費 (1個又は1組の価格 が3万円未満)		0 円	
用 品 費 (1個又は1組の価格 が3万円以上20万円未 満)		0 円	
図 書 資 料 費		0 円	
印 刷 製 本 費		0 円	
通 信 運 搬 費		0 円	
他 一 般 旅 費		0 円	
賃 借 料		0 円	
手 数 料 (報 酬)		0 円	
労務委託費 (電算)	アンケート集計委託料	800,000 円	業者へのアンケート集計・分析業務委託
労務委託費 ()		0 円	
労務委託費 ()		0 円	
計 (A)		800,000 円	
アルバイト関係支出 (記入の仕方に注意)			
人 件 費 支 出		0 円	別紙 (様式3) に記入のこと
計 (B)		0 円	
設備関係支出 (1個又は1組の価格が20万円以上のもの)			
教育研究用機器備品		0 円	別紙 (様式4) に記入のこと
計 (C)		0 円	
所要経費 (A+B+C)		800,000 円	

以上ない科目等は、教育開発推進機構事務課までご相談ください。
機器備品・用品の購入計画がある場合には、見積書・カタログ等購入計画物品を特定できる資料を添付してください。
大学のルール等により、申請した科目とは異なる科目への振替などが出来る場合があります。

令和5年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」経費執行計画表

課 題 名		カリキュラムおよび授業改善の基本方針検討		
教育研究経費支出内訳				
小 科 目	執 行 計 画			
	執 行 時 期	金 額	備 考	
消 耗 品 費 (1個又は1組の価格 が3万円未満)	上期・下期・その他	0 円		
用 品 費 (1個又は1組の価格 が3万円以上20万円未 満)	上期・下期・その他	0 円		
図 書 資 料 費	上期・下期・その他	0 円		
印 刷 製 本 費	上期・下期・その他	0 円		
通 信 運 搬 費	上期・下期・その他	0 円		
他 一 般 旅 費	上期・下期・その他	0 円		
賃 借 料	上期・下期・その他	0 円		
手 数 料 (報 酬)	上期・下期・その他	0 円		
労務委託費(電算)	下期	800,000 円		
労務委託費()	上期・下期・その他	0 円		
労務委託費()	上期・下期・その他	0 円		
()	上期・下期・その他	0 円		
計(A)		800,000 円		
アルバイト関係支出(記入の仕方に注意)				
人 件 費 支 出	上期・下期・その他	0 円		
計(B)		0 円		
設備関係支出(1個又は1組の価格が20万円以上のもの)				
教育研究用機器備品	上期・下期・その他	0 円		
計(C)		0 円		
所要経費(A+B+C)		800,000 円		

※執行時期が「その他」の場合は、備考欄に具体的な時期を記載してください。

※ご不明な点は、教育開発推進機構事務課までご相談ください。

令和5年度「FD推進助成（甲）学部FD推進事業」中間報告書

令和5年9月4日提出

事業申請者 (学部長申請)	文学部長 矢部 健太郎	
課題名	カリキュラムおよび授業改善の基本方針の検討	

■事業の進展状況

令和5年4月から報告時点（9月末）までの当該申請事業の進展状況について、申請書に記載した「目的」「内容」「計画」「役割分担」を考慮しつつ、いつ、どこで、だれが、何を実施したかを考慮して、その概要を簡潔に説明してください（枠内書式自由）。

◎ なお、学部教員全員を対象として検討会等を実施した場合には、その日時と参加人数を明記してください。

今年度も、例年のとおり、①文学部独自のFDアンケートを実施し、②アンケート結果を基にした研修会を開催する。

①については、6月の文学部教務委員会でアンケートの内容、実施方法、スケジュール等、本件に関する一連の項目を審議し、確定した。また、これまでと同様、K-SMAPYIIを用いたウェブ上のアンケートとして実施することになった。

7月から8月にかけて文学部資料室、教育開発推進機構事務課、文学部FD担当教務委員の三者がメール等で今年度のアンケートの実施を確認し、労務委託申請書の内容を調整した。文学部FD担当教務委員がアンケート集計・分析の労務委託申請書を7月上旬に教育開発推進機構事務課に提出し、現在は教育開発推進機構事務課が業者選定の手続きを調整中である。

また、現在、文学部資料室がK-SMAPY IIへの入力作業に向けた準備を進めている。アンケートは昨年度と同時期の10月上旬から中旬にかけて実施する予定である。その後、アンケートのデータを10月下旬に業者に送り、業者によるデータ分析結果の納品は11月末を予定している。

②の研修会は、業者によるアンケート集計後、および教務委員会によるデータ分析結果の検討後の2月上旬に実施する予定である。

■事業に関する変更点

現在までの進展状況から、申請書に記した「計画」「役割分担」「点検・評価」「改善（期待される効果）」に変更が生じる見込みであれば、その理由とどのような変更を見込まれるかについて簡潔に記述してください（枠内書式自由）。

予算、上記のアンケート及び研修会、その他の点については、当初の申請書に記した通りであり、当初の計画に変更はない。

■経費の執行状況 ※いずれかに○を付けて「その理由」を記述してください。

当初計画どおりの見込み

減額補正を申請する見込み

* その理由 (減額補正を申請する場合は、必ず記入してください。)

事業実務担当者名(教員)	竹内 正彦 (文学部日本文学科/職位 教授)
--------------	------------------------

令和5年度「FD推進助成(甲)学部FD推進事業」事業報告書

標記のことに關し、以下のとおり報告いたします。

学 部 名	文学部
事 業 名	カリキュラムおよび授業改善の基本方針の検討
実務担当者名	竹内 正彦 (文学部日本文学科)
事 業 の 概 要	
<p>文学部では、2020(令和2)年度から2022(令和4)年度までの3ヵ年計画の一部として、独自の授業評価アンケートを実施し、アンケート結果を検討して学部全体の全般的な傾向を分析・確認するとともに、各学科の個別の状況を確認した。文学部では以前にも独自の評価アンケートを実施しており、2019(令和元)年度に5年間のアンケート結果を元に、学部の全般的な傾向と各学科の状況を分析した。文学部の各学科は、2020年度以前からカリキュラム改訂を行なっており、その成果や影響についてこれまでも継続的に分析・確認を行い、本事業もその延長に位置付けられる。</p> <p>2023(令和5)年度は、3ヵ年計画をふまえつつ、同様のアンケートを実施するとともに、今年度を含めた4ヵ年の経年変化の分析を行った。本アンケートの実施にあたっては、文学部教務委員会において、昨年度と同様に、第3回委員会(6月7日)で、今年度のFDアンケートの実施計画を議論し、実施するアンケート項目を昨年度の結果を踏まえて加筆修正した。</p> <p>アンケートのK-SMAPYII上での作成は、文学部資料室に協力を依頼した。このアンケートの作成作業と並行して、アンケートの分析を業者に依頼するため見積を依頼した。見積は2社から提出されたが、検討の結果、株式会社グループワークスに集計・分析作業を委託することに決定した。</p> <p>アンケートは2023年10月5日(木)から10月27日(金)まで実施した。最終的な回答率は12.5パーセントで、昨年度の17.6パーセントよりも低い回収率であった。</p> <p>アンケートの終了後、回答データを文学部資料室にとりまとめてもらい、委託業者の株式会社グループワークスに送付した。集計・分析結果は、11月21日に最終的な分析報告書を受領した。アンケート結果について第8回委員会(12月13日)で報告を行い、この報告書は、文学部各学科のカリキュラム・授業改善に向けた資料として各学科に配布された。</p> <p>2024年2月7日の文学部教務委員会終了後に、文学部の教務委員と教務部委員を対象とした報告会(研修会)をオンラインで実施した。報告会には、委託業者の担当者である吉田将夫氏に加わってもらい、参加者は吉田氏からアンケートの分析結果について報告を受けた後、質疑応答を行なった。この報告会によって、参加者はアンケート結果から推定される学生の満足度についての学部と学科の全般的な傾向や今後のアンケート実施方法の改善点などについて、様々な理解を得ることができた。</p>	

事業の結果

【目的】年初計画で設定した目的は達成できましたか？（または「今後達成できるか？」）（いずれかにチェック）

十分達成できた（できる） 若干の計画修正の上達成可 大幅な修正の上達成可 達成できない

【内容】年初計画で設定した事業内容は適切でしたか？（いずれかにチェック）

適切であった 概ね適切であった あまり適切でなかった 適切でなかった

【点検・評価・共有】点検・評価を行い、その結果を学部教員全員で十分に共有・検討しましたか？

十分な点検・評価・共有ができた 一定の点検・評価・共有ができた

点検・評価・共有のどれかが不十分であった 点検・評価・共有のほとんどが不十分であった

【本事業の目的】

今年度は、昨年度のアンケートの結果を踏まえ、文学部教務委員会で確認した上で、文学部 FD アンケート作成し、実施した。今年度のアンケートでは、今年度を含めた4ヶ年のアンケートの経年変化を分析することによって、カリキュラム改定の効果と影響を推定することができ、遠隔授業などの授業実施形態に対する学生の満足度についても一定の傾向を窺い知ることができた。

【本事業の内容】

本事業は、(1)文学部授業評価アンケートの実施と(2)報告会(研修会)の実施から構成された。(1)に関しては、今年度も昨年度とほぼ同じ内容でアンケートを実施した。昨年度の問題点を検討・改善しながら、順調にアンケートの作成から実施まで進めることができた。しかしながら、年度を経るごとにアンケートへの回答数は伸び悩み、今年度の最終的な回答率(回収率)は、過去4年度で最低であった。報告会では、昨年度に引き続いて、回答率向上の方法を議論した。集計・分析委託業者の方からは、回収率向上に向けたいくつかの具体的な方策が示された。回収率は低いものの、全般的な傾向を知る上では問題ないと言える範囲ではあるが、学科間で回答率に差が見られるので、回答率の低い学科には、今後同様のアンケートを実施する場合、特に改善の取り組みが必要になってくる。

(2)に関しては、2024年2月7日にオンライン会議形式で報告会を開催した。11月に納品された集計・分析結果を用いて、委託業者の担当者にアンケート結果を解説してもらい、その後、全員で学生のカリキュラムや授業に対する満足度の評価と改善を検討した。報告会の開催によって、参加者はアンケート結果に関するより深い理解を得ることができた。今後、各学科でアンケート結果を共有し、学科会議等での説明を通してフィードバックしていくことになる。

【点検・評価・共有】

授業評価アンケートは、各学科の教務委員を通じて文学部各学科の全教員に共有され、アンケート結果を元に、授業運営の改善やカリキュラム改定に利用される。今後、アンケート結果や報告会を踏まえて、教務委員会や学科会議で検討が行われていくわけであるが、詳細な検討や授業改善の結果やカリキュラム改定の結果が目に見える形で現れ、学生に実感されるまでには時間を要するため、十分な共有はできてはいるが、点検と評価に関しては、一定の達成があったと判断している。

今後の展望

【改善・期待される効果】 本事業で得た知見は、今後の当該学部の教授法や授業改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない (いずれかにチェック)

今回のアンケートの結果を見ると、文学部のカリキュラム全体への学生満足度は高いと判断することができる。所属学科のカリキュラムについて、「満足」・「概ね満足」を合わせた割合は 72.7 パーセントとなっており、とりわけ、学科専門科目と専門教養科目を合わせた専門科目への学生満足度が高いことが明らかになっている。その一方で、共通教育科目では、「満足」・「概ね満足」の割合が低めとなっており、特に英語科目では、その割合は 3 割強にとどまっている。非好意的な理由の中で、「取りたい科目がない・取れない／抽選で落ちる」の項目の割合が 12.9 パーセントである。この点を改善していくことで、今後、共通教育の英語科目の満足度が高まっていくと予想される。英語以外の外国語科目については、英語科目よりも満足度は高い (44.1 パーセント)。好意的な理由の中では、「教員・教え方が良い」の項目の割合が一番高く、担当教員によって満足度が大きく異なることも明らかになった。アンケートの結果から、授業満足度に関して、学生が重視していると思われるものは、「専門的な学術研究に触れられる」ことであり、カリキュラム全体の満足度にとっては、満足度が低めの科目の評価の改善と同時に、影響度の高い学科専門科目の満足度の維持・向上が重要との結果が示されている。

経年変化の分析としては、カリキュラムの満足度および授業科目別満足度が年々上昇しており、カリキュラム改革等が一定の効果をあげていることが推察される。その意味において、本事業で得た知見は、今後の学部の教授方法や授業改善にとっても効果的なものであると判断できる。

【汎用性・波及効果】 本事業で得た知見は、学部学科を超えた本学学士課程教育全体または教員の職能改善に効果的であるか？

とても効果的である 効果的である あまり効果的でない 効果的でない (いずれかにチェック)

今回実施したアンケートは、文学部独自のものではあるが、このアンケートの項目の中には、授業形式、教職・資格課程、就職活動、卒業論文など、文学部のみならず、全学的に共通する項目も含んでおり、こうした項目に関する結果は、ひとつのサンプルとして、全学で共有できるものである。そのため、本学全体の教育研究や、教職員の職能改善へ資するものである。

今年度のアンケートでも授業形式について聞いたが、授業の種類によって好ましい(適している)と感じる授業形式に違いがあることが今回のアンケートでも明らかになった。例えば、講義科目では遠隔授業(オンデマンド型)が 4 割、演習科目では対面授業(対面型)が 8 割、外国語系科目では対面授業(対面型)が 6 割弱となっている。ただし、昨年度と比較すると、どの科目においても対面授業(対面型)が適しているとする割合が増えてきている。全学的に授業形式を検討する際に、文学部のアンケート結果はひとつの参考として役立てられると思われる。

また、教職・資格課程や就職活動、卒業論文についても満足度の割合やその理由について結果が得られており、これらは文学部を超えて、本学全体のカリキュラムや学修サポート体制といった学士課程教育全体の制度設計の改善に役立つものであると考えられる。例えば、「取りたい科目がとりにくい／受講しやすくしてほしい」といった意見が教職・資格課程では割合が一番高く、教職・資格課程を途中で諦めたり、履修を躊躇する理由になると考えられるので、時間割等の見直しに関係する。卒業論文については、文学部から得られた意見が他学部他学科でも得られる可能性は十分あり、全学的に卒業論文をいうものをどのように履修の中に組み込むかを検討し、議論する際の参考になると考えられる。

【経費の執行】経費の執行は、執行計画表に基き執行時期・費目別執行率とも適切でしたか？

【中間報告以前】

前年度末に今年度の学部FD推進事業の経費支出として労務委託費(電算)税込 800 千円を予算として計上した。この金額は昨年度の実績を踏まえつつ、経年変化分析の実施を含んで策定したものである。また、当初から中間報告以前に予算を執行する予定はなかった。

【中間報告以後】

先にも述べたように、本事業の実施に際して、見積を実施した。見積は2社から提出され、検討の結果、予算額以内でより安価にアンケート結果の分析を委託できる委託業社として株式会社グループワークスを選定し、予算を執行した。経費の執行は、執行時期や費目別執行率ともに、当初の計画に沿ったものであり、予算は適切に執行された。

【成果報告会】成果報告会の内容（説明事項、共有事項、問題提起等）について現時点での概要をお書きください。

成果報告会では、文学部 FD 事業の概要、今年度の文学部授業評価アンケートの実施方法とその内容を説明し、アンケートの集計・分析の結果の概要を説明・報告する。

具体的には、上記の「今後の展望」の項目で示したことを中心に、文学部のカリキュラムと授業実施形態に対する学生の満足度をデータとして示し、それらの満足度の要因も提示する。また、経年変化の分析についても報告する予定である。



文学部FDアンケート調査結果

2023年11月

目次		國學院大學
1. 調査概要-----	2	
2. 回答者属性-----	4	
3. 今年度の調査結果-----	9	
① 全体-----	10	
② 日本文学科-----	50	
③ 中国文学科-----	53	
④ 外国語文化学科-----	56	
⑤ 史学科-----	59	
⑥ 哲学科-----	62	
参考分析結果-----	65	

1. 調査概要

2

調査概要

國學院大學

- 調査方法 K-SMAPY II を利用したアンケート
- 調査対象 文学部1～4年生 (3,187人に配信)
- 実施期間 2023年10月5日(木)～10月27日(金)
- 回収数 399 (回収率 : 12.5%)

	日本文学科	中国文学科	外国語文化 学科	史学科	哲学科	無回答	小計
1年生	55	6	16	47	11	2	137
2年生	40	4	10	29	5	1	89
3年生	44	6	13	38	10	1	112
4年生	25	4	5	19	4	0	57
無回答	1	0	0	2	1	0	4
小計	165	20	44	135	31	4	399

3

2. 回答者属性

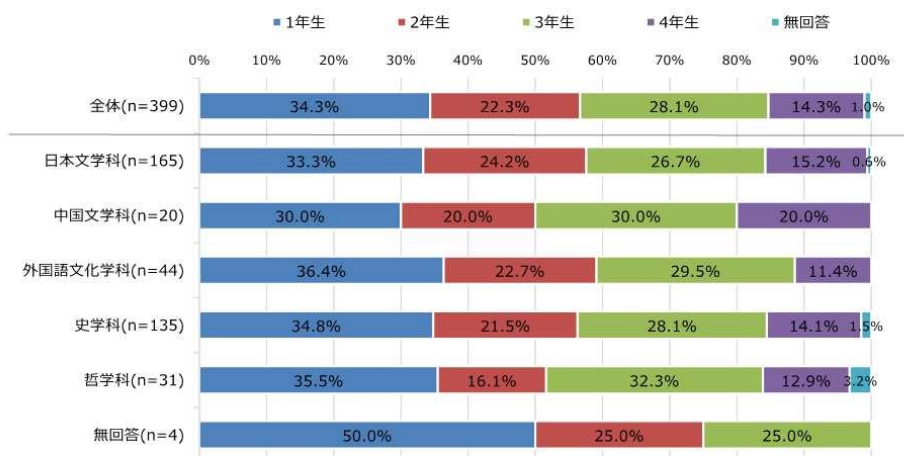
4

学年

國學院大學

Q1. あなたの学年を教えてください。

■ 「1年生」(34.3%)が最も多く、次いで「3年生」(28.1%)、「2年生」(22.3%)、「4年生」(14.3%)であった。



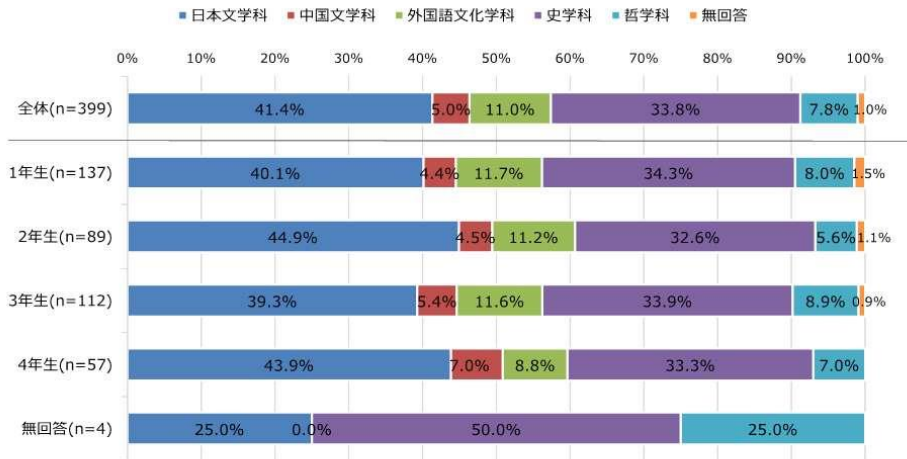
※ 小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%とならない場合があります。(次ページ以降も同様)

5

学科

Q2. あなたの所属する学科・専攻・コース・プログラムを教えてください。

■ 「日本文学科」(41.4%)と「史学科」(33.8%)の2学科で約4分の3を占め、「外国語文化学科」は11.0%、「哲学科」は7.8%、「中国文学科」は5.0%であった。

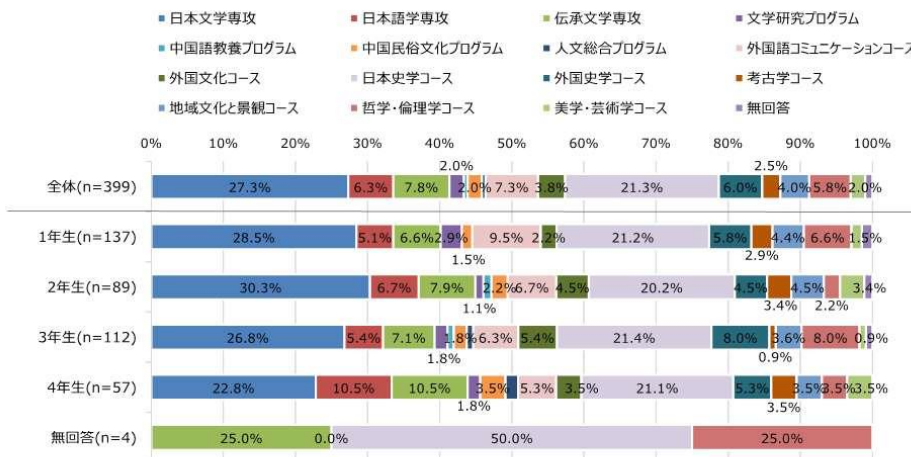


6

学科・専攻・コース・プログラム

Q2. あなたの所属する学科・専攻・コース・プログラムを教えてください。

■ 「日本文学専攻」が27.3%で最も高く、次いで「日本史学コース」(21.3%)、「伝承文学専攻」(7.8%)、「外国語コミュニケーションコース」(7.3%)の順であった。

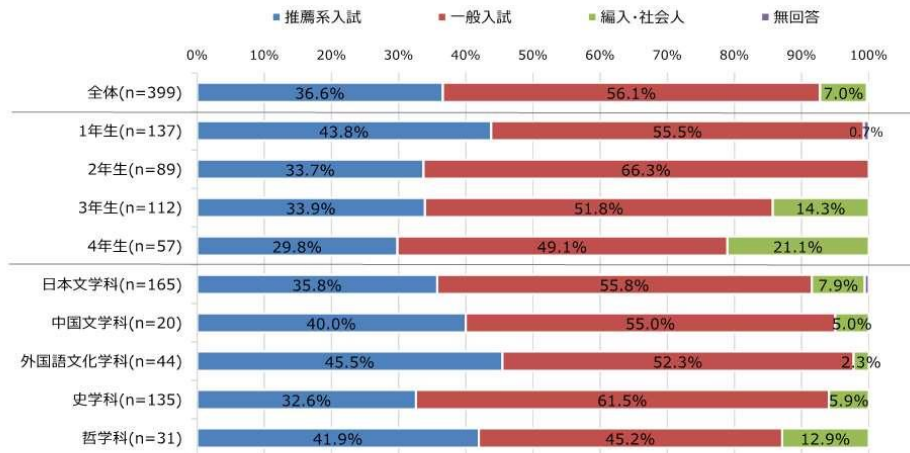


7

入学した入試制度

Q3. あなたが入学した入試制度を教えてください。

- 「一般入試」が56.1%と半数を超え、「推薦系入試」は36.6%、編入・社会人は7.0%であった。
- 3・4年生では「編入・社会人」がそれぞれ14.3%、21.1%であった。



8

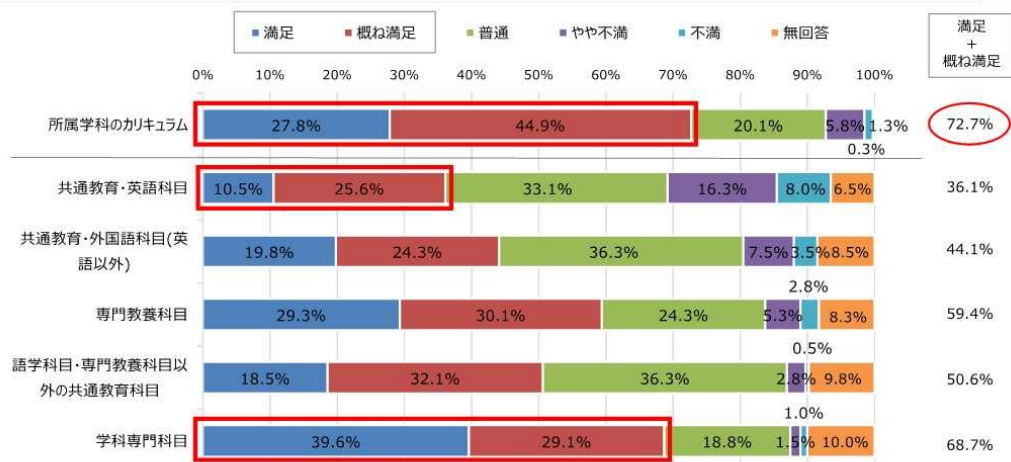
3. 今年度の調査結果

9

① 全体

授業科目の満足度サマリー

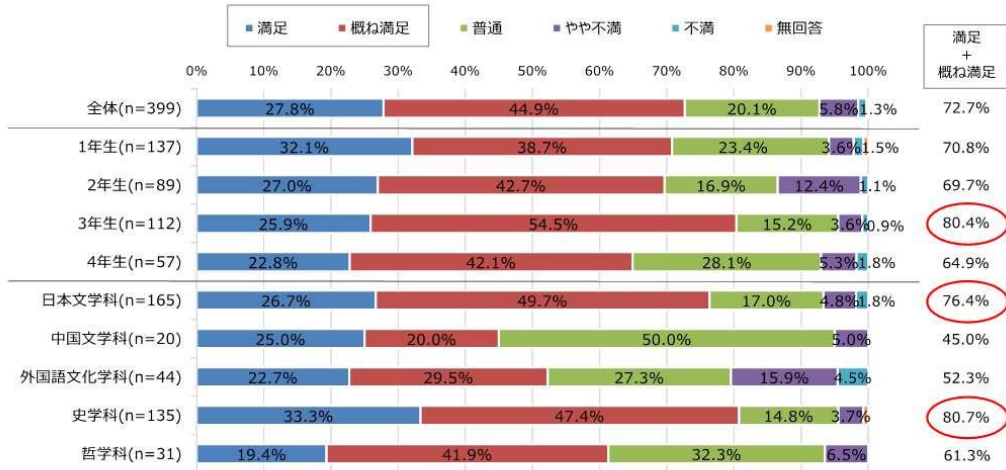
- 所属学科のカリキュラムについて、「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合は72.7%。
- 授業科目で<満足>の割合が最も高いのは「学科専門科目」で68.7%、次いで「専門教養科目」(59.4%)であった。
- 一方、共通教育科目は<満足>の割合が低めとなっており、「英語科目」では36.1%にとどまっている。



カリキュラム満足度

Q4. あなたの所属学科のカリキュラムについて、どのように感じますか。

- 学年別では、「満足」の割合は、1年生が32.1%と最も高いが、「概ね満足」を合わせた<満足>の割合では、3年生(80.4%)が最も高い。
- 学科別では、史学科(80.7%)、日本文学科(76.4%)で<満足>の割合が8割前後となっている。



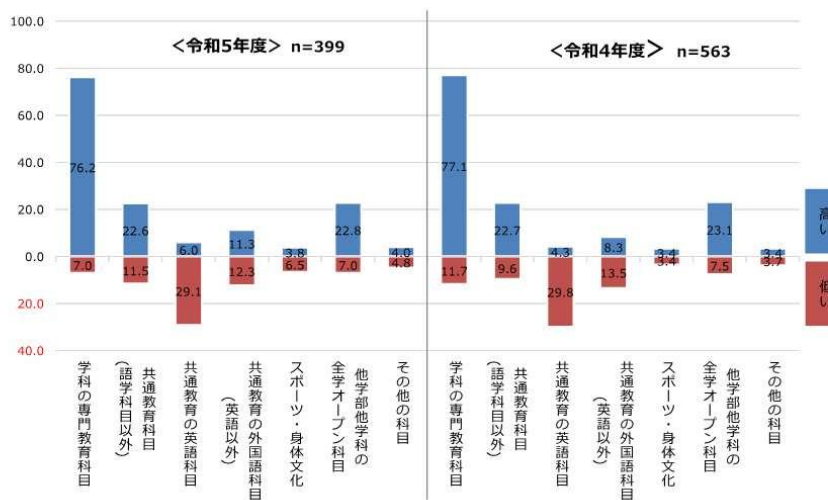
12

満足度の高い/低い科目

Q5-1. 本学の授業の中で、満足度の高いものはどれですか。(複数回答可)

Q5-2. 本学の授業の中で、満足度の低いものはどれですか。(複数回答可)

- 『満足度が高い』では「学科の専門教育科目」が76.2%、『満足度が低い』では「共通教育の英語科目」が29.1%で、それぞれ回答割合が最も高かった。

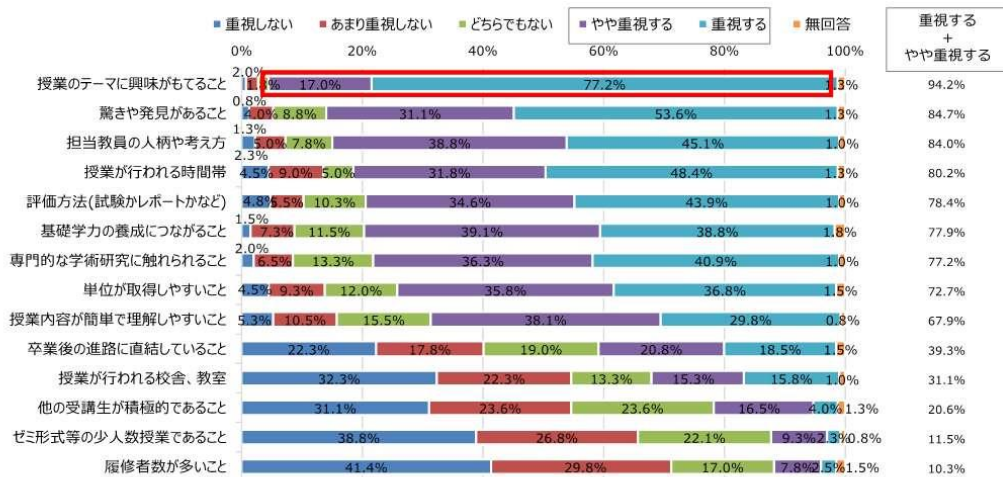


13

授業満足度測定に際しての重視度

Q5-3. 授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どのくらい重視しますか。

- 「重視する」と「やや重視する」を合わせた<重視する>割合は、「授業のテーマに興味を持てること」が94.2%で最も高く、次いで「驚きや発見があること」(84.7%)、「担当教員の人柄や考え方」(84.0%)、「授業が行われる時間帯」(80.2%)の順であった。

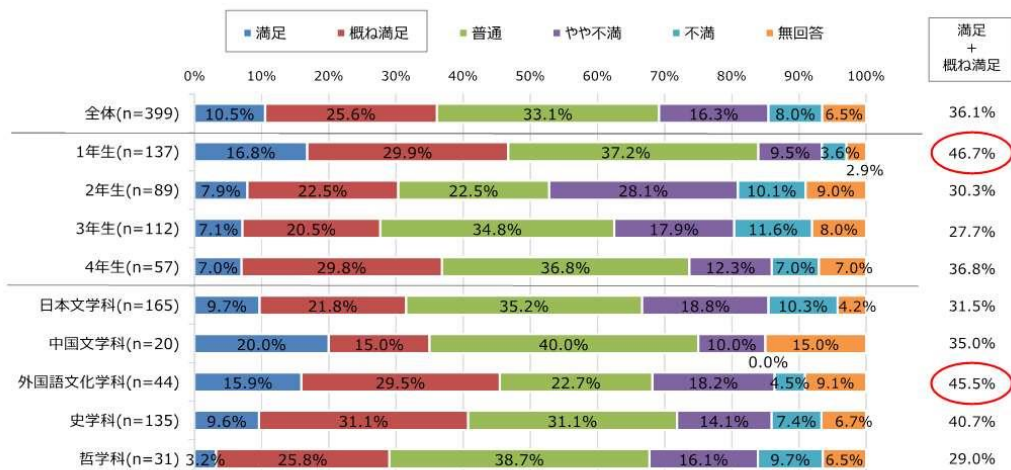


ベース：全対象者 (n=399) 14

共通教育・英語科目満足度

Q6-1. 共通教育の英語科目をどのように感じますか。

- 「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合は、全体で36.1%であった。
- 学年別では、1年生で<満足>の割合が最も高く、46.7%であった。
- 学科別では、外国語文化学科で<満足>の割合が最も高く、45.5%であった。

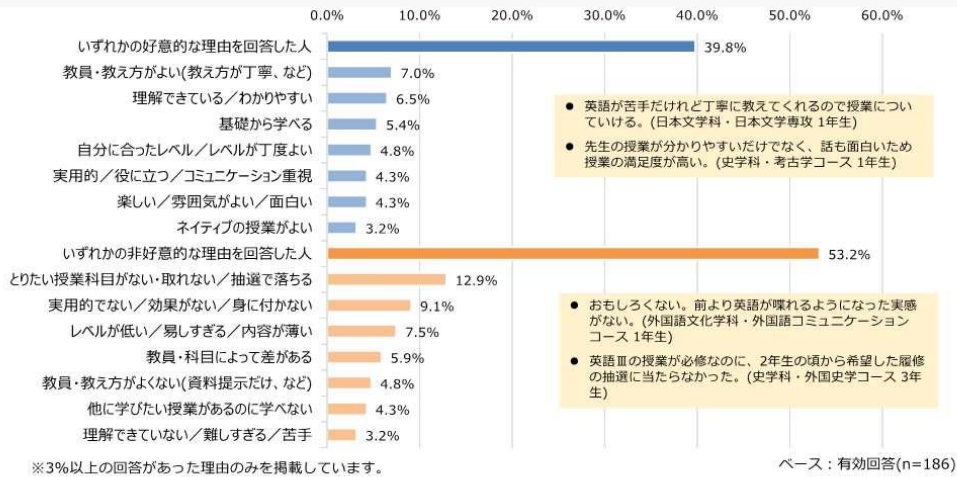


15

共通教育・英語科目満足度理由

Q6-2. Q6-1の回答理由を詳しく記入してください。

- 自由回答で述べられた英語科目の評価理由をいくつかの類似のカテゴリーに分類(=アフターコーディング)し、回答割合を集計したところ、好意的な理由(39.8%)よりも、非好意的な理由(53.2%)が述べられた割合の方が高かった。
非好意的な理由の主なもの「**とりたい授業科目がない・取れない／抽選で落ちる**」(12.9%)、「**実用的でない／効果がない／身に付かない**」(9.1%)などであった。



共通教育・英語科目満足度理由(詳細)

Q6-2. Q6-1の回答理由を詳しく記入してください。

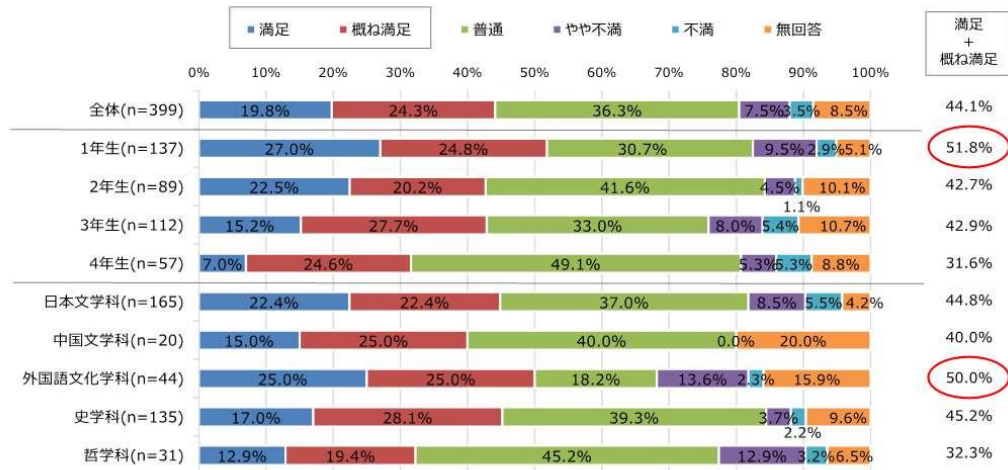
	全体	Q1. 学年				学科				
		1年生	2年生	3年生	4年生	日本文学科	中国文学科	外国語文化学科	史学科	哲学科
ベース：「特になし」を除く(有効回答)	(186)	(63)	(46)	(54)	(21)	(86)	(4)	(17)	(66)	(13)
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
いずれかの好意的な理由を回答した人	39.8	55.6	19.6	31.5	57.1	37.2	25.0	23.5	50.0	30.8
教員・教え方がよい(質が高い、教え方が丁寧、など)	7.0	14.3	2.2	5.6	0.0	3.5	0.0	0.0	15.2	0.0
理解できている／わかりやすい	6.5	9.5	2.2	3.7	14.3	7.0	0.0	5.9	7.6	0.0
基礎から学べる	5.4	4.8	0.0	7.4	14.3	5.8	0.0	11.8	4.5	0.0
自分に合ったレベル／レベルが丁度よい	4.8	7.9	0.0	3.7	9.5	4.7	0.0	0.0	6.1	7.7
実用的／役に立つ／コミュニケーション重視	4.3	3.2	4.3	1.9	9.5	3.5	25.0	0.0	6.1	0.0
楽しい／雰囲気がい／面白い	4.3	9.5	2.2	1.9	0.0	3.5	0.0	5.9	3.0	15.4
ネイティブの授業がよい	3.2	6.3	0.0	3.7	0.0	1.2	0.0	0.0	7.6	0.0
単位を取りやすい	2.2	1.6	4.3	0.0	4.8	3.5	0.0	0.0	1.5	0.0
語学力が身につく／教養が身につく／知識が広がる	2.2	3.2	0.0	1.9	4.8	3.5	0.0	0.0	1.5	0.0
いずれかの非好意的な理由を回答した人	53.2	34.9	78.3	59.3	38.1	59.3	50.0	70.6	39.4	61.5
とりたい授業科目がない・取れない／抽選で落ちる	12.9	0.0	37.0	13.0	0.0	18.6	25.0	5.9	9.1	0.0
実用的でない／効果がない／身に付かない	9.1	7.9	10.9	9.3	9.5	5.8	25.0	17.6	9.1	15.4
レベルが低い／易すぎる／内容が薄い	7.5	4.8	0.0	14.8	9.5	7.0	0.0	11.8	4.5	23.1
教員・科目によって差がある	5.9	4.8	10.9	3.7	4.8	4.7	0.0	29.4	1.5	7.7
教員・教え方がよくない(資料提示だけ、など)	4.8	4.8	4.3	5.6	4.8	7.0	0.0	0.0	3.0	7.7
必修単位数が多すぎる／他に学びたい授業があるのに学べない	4.3	4.8	4.3	3.7	4.8	4.7	0.0	0.0	6.1	0.0
理解できていない／難すぎる／苦手	3.2	3.2	4.3	3.7	0.0	4.7	0.0	0.0	3.0	0.0
可もなく不可もなく／普通／特に問題はない	5.9	6.3	2.2	7.4	9.5	4.7	25.0	5.9	6.1	7.7

※全体で2%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

共通教育・外国語科目(英語以外)満足度

Q7-1. 共通教育の外国語科目(英語以外)をどのように感じますか。

- 「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合は、全体で44.1%であった。
- 学年別では、英語科目と同じく、1年生で<満足>の割合が最も高く、51.8%であった。
- 学科別でも、英語科目と同じく、外国語文化学科で<満足>の割合が最も高く、50.0%となっている。

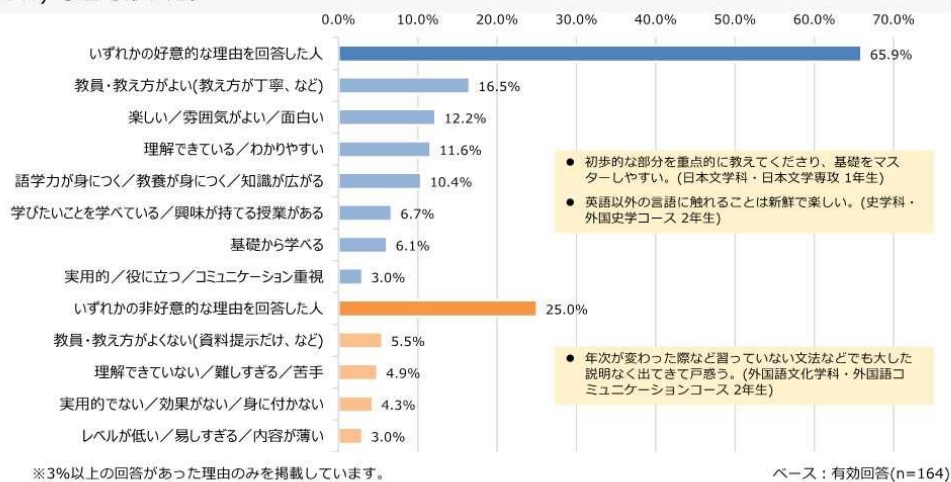


18

共通教育・外国語科目(英語以外)満足度理由

Q7-2. Q7-1の回答理由を詳しく記入してください。

- 好意的な理由 (65.9%)の主なもの「教員・教え方がよい(教え方が丁寧、など)」(16.5%)、「楽しい/雰囲気がい/面白い」(12.2%)などであった。
- 一方、非好意的な理由 (25.0%)の主なもの「教員・教え方がよくない(資料提示だけ、など)」(5.5%) などであった。



19

共通教育・外国語科目(英語以外)満足度理由(詳細)

Q7-2. Q7-1の回答理由を詳しく記入してください。

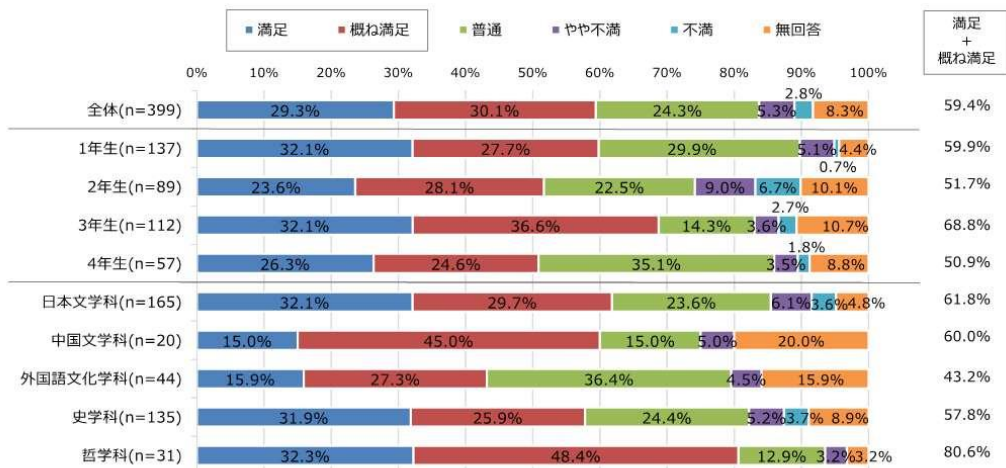
	全体 (164)	Q1. 学年				学科				
		1年生 (59)	2年生 (35)	3年生 (47)	4年生 (21)	日本文学科 (73)	中国文学科 (4)	外国語 文化学科 (18)	史学科 (58)	哲学科 (11)
ベース:「特になし」を除く有効回答	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
いずれかの好意的な理由を回答した人	65.9	69.5	74.3	63.8	47.6	63.0	100.0	66.7	72.4	36.4
教員・教え方がよい(質が高い、教え方が丁寧、など)	16.5	20.3	17.1	17.0	4.8	17.8	0.0	5.6	22.4	0.0
楽しい/雰囲気がいよ/面白い	12.2	20.3	14.3	6.4	0.0	11.0	0.0	11.1	17.2	0.0
理解できている/わかりやすい	11.6	15.3	14.3	10.6	0.0	13.7	25.0	11.1	10.3	0.0
語学力が身につく/教養が身につく/知識が広がる	10.4	11.9	2.9	14.9	4.8	11.0	25.0	5.6	8.6	18.2
学びたいことを学べている/興味を持てる授業がある	6.7	8.5	8.6	6.4	0.0	6.8	0.0	11.1	6.9	0.0
基礎から学べる	6.1	6.8	8.6	4.3	4.8	5.5	0.0	5.6	6.9	9.1
実用的/役に立つ/コミュニケーション重視	3.0	1.7	5.7	0.0	9.5	2.7	25.0	5.6	1.7	0.0
単位を取りやすい	2.4	3.4	2.9	2.1	0.0	4.1	0.0	0.0	1.7	0.0
その他の好意的な理由(単に「満足」など)	3.7	0.0	8.6	0.0	14.3	2.7	0.0	5.6	5.2	0.0
いずれかの非好意的な理由を回答した人	25.0	23.7	20.0	25.5	33.3	27.4	0.0	38.9	13.8	54.5
教員・教え方がよくない(資料提示だけ、など)	5.5	10.2	2.9	2.1	4.8	6.8	0.0	16.7	0.0	9.1
理解できていない/難しすぎる/苦手	4.9	6.8	0.0	6.4	4.8	5.5	0.0	0.0	1.7	27.3
実用的でない/効果がない/身に付かない	4.3	1.7	5.7	2.1	9.5	2.7	0.0	5.6	5.2	9.1
レベルが低い/易すぎる/内容が薄い	3.0	0.0	2.9	8.5	0.0	4.1	0.0	5.6	0.0	9.1
教員・科目によって差がある	2.4	1.7	5.7	2.1	0.0	4.1	0.0	5.6	0.0	0.0
可もなく、不可もなく/普通/特に問題はない	6.1	5.1	2.9	6.4	14.3	6.8	0.0	0.0	8.6	0.0
受講していない	3.0	1.7	0.0	4.3	9.5	1.4	0.0	0.0	5.2	9.1

※全体で2%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

専門教養科目満足度

Q8-1. 専門教養科目をどのように感じますか。

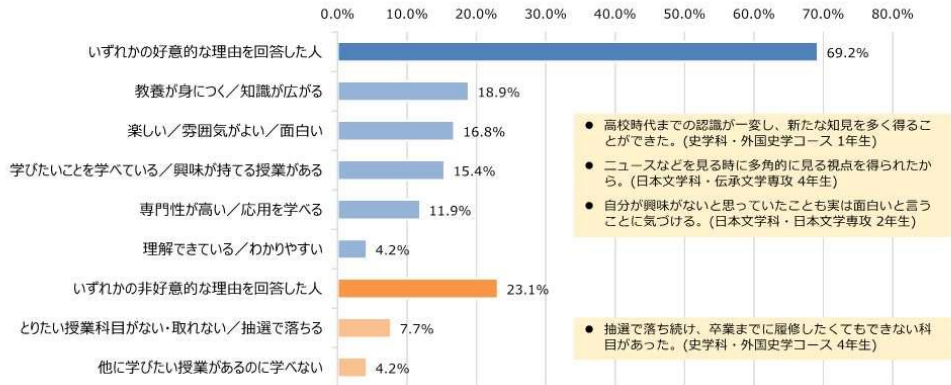
- 「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合は、全体で67.0%であった。
- 学年別では、3年生で<満足>の割合が最も高く、68.8%であった。
- 学科別では、哲学科で<満足>の割合が最も高く、80.6%となっている。



専門教養科目満足度理由

Q8-2. Q8-1の回答理由を詳しく記入してください。

- 好意的な理由 (69.2%)の主なものは「教養が身につく／知識が広がる」(18.9%)、「楽しい／雰囲気がよい／面白い」(16.8%)などであった。
- 一方、「教員・教え方がよくない(資料提示だけ、など)」などの非好意的な理由の回答割合は23.1%であった。



※3%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

ベース：有効回答(n=143)

専門教養科目満足度理由(詳細)

Q8-2. Q8-1の回答理由を詳しく記入してください。

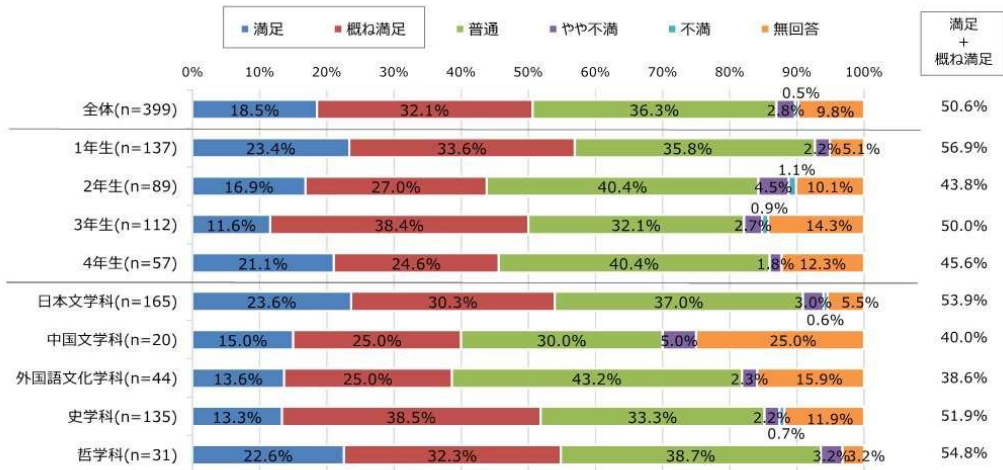
	全体	Q1. 学年				学科				
		1年生	2年生	3年生	4年生	日本文学科	中国文学科	外国語文化学科	史学科	哲学科
ベース：「特になし」を除く有効回答	(143)	(50)	(31)	(42)	(18)	(58)	(3)	(10)	(60)	(12)
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
いずれかの好意的な理由を回答した人	69.2	72.0	54.8	73.8	72.2	67.2	33.3	70.0	70.0	83.3
教養が身につく／知識が広がる	18.9	26.0	9.7	21.4	11.1	13.8	0.0	50.0	18.3	25.0
楽しい／雰囲気がよい／面白い	16.8	18.0	22.6	11.9	16.7	25.9	0.0	10.0	8.3	25.0
学びたいことを学べている／興味が持てる授業がある	15.4	18.0	9.7	16.7	11.1	15.5	0.0	0.0	13.3	41.7
専門性が高い／応用を学べる	11.9	8.0	9.7	14.3	16.7	6.9	0.0	0.0	16.7	25.0
理解できている／わかりやすい	4.2	4.0	0.0	7.1	5.6	3.4	33.3	10.0	3.3	0.0
教員・教え方がよい(質が高い、教え方が丁寧、など)	2.8	2.0	6.5	2.4	0.0	3.4	0.0	0.0	3.3	0.0
実用的／役に立つ／コミュニケーション重視	2.1	0.0	0.0	7.1	0.0	1.7	0.0	0.0	3.3	0.0
いずれかの非好意的な理由を回答した人	23.1	18.0	38.7	21.4	11.1	22.4	66.7	20.0	21.7	25.0
とりたい授業科目がない／取れない／抽選で落ちる	7.7	6.0	16.1	4.8	5.6	6.9	33.3	10.0	6.7	8.3
必修単位数が多すぎる／他に学びたい授業があるのに学べない	4.2	2.0	9.7	4.8	0.0	1.7	33.3	0.0	6.7	0.0
教員・科目によって差がある	2.8	2.0	3.2	4.8	0.0	3.4	0.0	0.0	1.7	8.3
理解できていない／難しすぎる／苦手	2.8	4.0	3.2	2.4	0.0	3.4	0.0	0.0	3.3	0.0
可もなく不可もなく／普通／特に問題はない	2.1	2.0	3.2	0.0	5.6	0.0	0.0	10.0	3.3	0.0
単位が取ればよい／興味がない	4.2	6.0	3.2	4.8	0.0	6.9	0.0	0.0	3.3	0.0
受講していない	2.1	4.0	0.0	0.0	5.6	3.4	0.0	0.0	1.7	0.0

※全体で2%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

語学科目・専門教養科目以外の共通教育科目満足度

Q9-1. 語学科目・専門教養科目以外の共通教育科目をどのように感じますか。

- 「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合は、全体で50.6%であった。
- 学年別では、1年生(56.9%)で<満足>の割合が高かった。
- 学科別では、日本文学科(53.9%)、史学科(51.9%)、哲学科(54.8%)で<満足>の割合が高かった。

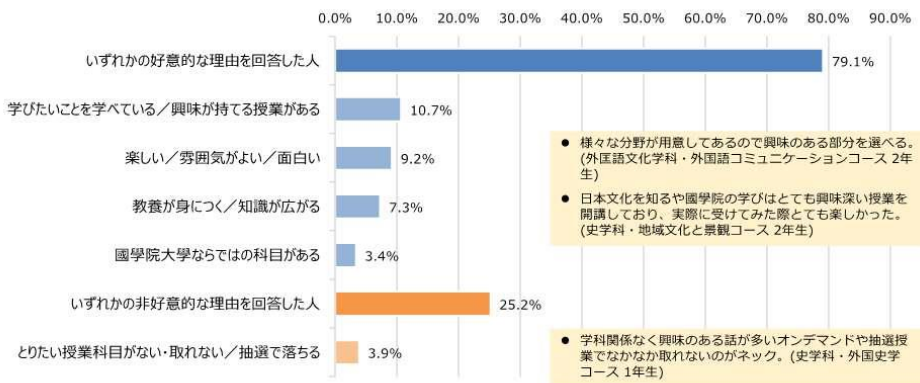


24

語学科目・専門教養科目以外の共通教育科目満足度理由

Q9-2. Q9-1の回答理由を詳しく記入してください。

- 好意的な理由 (79.1%)の主なものは「学びたいことを学べている／興味が持てる授業がある」(10.7%)、「楽しい／雰囲気がい／面白い」(9.2%)などであった。
- 一方、「とりたい授業科目がない・取れない／抽選で落ちる」など非好意的な理由の回答割合は25.2%であった。



※3%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

ベース：有効回答(n=116)

25

語学科目・専門教養科目以外の共通教育科目満足度理由(詳細)

Q9-2. Q9-1の回答理由を詳しく記入してください。

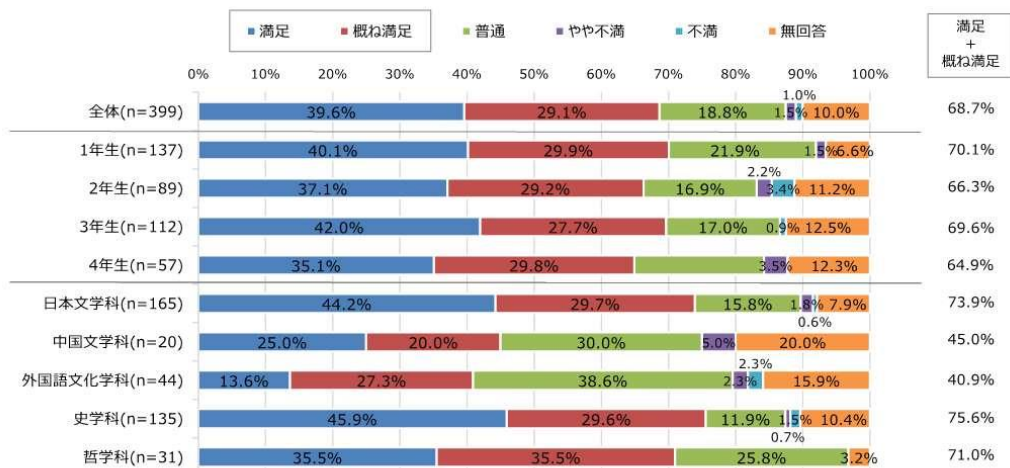
	全体	Q1. 学年				学科				
		1年生	2年生	3年生	4年生	日本文学科	中国文学科	外国語文化学科	史学科	哲学科
ベース:「特になし」を除く有効回答	(116)	(39)	(27)	(31)	(17)	(52)	(5)	(12)	(32)	(11)
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
いずれかの好意的な理由を回答した人	79.1	86.6	71.7	75.4	79.3	79.3	62.5	88.9	76.3	88.9
学びたいことを学べている／興味が持てる授業がある	10.7	9.0	13.0	8.2	13.8	11.0	25.0	16.7	5.3	11.1
楽しい／雰囲気がい／面白い	9.2	10.4	8.7	11.5	3.4	12.2	0.0	11.1	3.9	22.2
教養が身につく／知識が広がる	7.3	7.5	8.7	4.9	10.3	9.8	0.0	5.6	5.3	5.6
國學院大學ならではの科目がある	3.4	3.0	6.5	3.3	0.0	4.9	0.0	0.0	3.9	0.0
バラエティに富んでいる	2.9	6.0	0.0	1.6	3.4	3.7	12.5	5.6	0.0	0.0
理解できている／わかりやすい	2.4	1.5	6.5	0.0	3.4	2.4	0.0	0.0	3.9	0.0
いずれかの非好意的な理由を回答した人	25.2	19.4	39.1	21.3	24.1	26.8	25.0	16.7	25.0	27.8
とりたい授業科目がない／取れない／抽選で落ちる	3.9	4.5	2.2	3.3	6.9	7.3	0.0	0.0	2.6	0.0
教員・科目によって差がある	2.4	0.0	8.7	1.6	0.0	3.7	0.0	5.6	0.0	5.6
可もなく不可もなし／普通／特に問題はない	3.4	3.0	2.2	4.9	3.4	1.2	0.0	0.0	6.6	5.6

※全体で2%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

学科専門科目満足度

Q10-1. 学科専門科目をどのように感じますか。

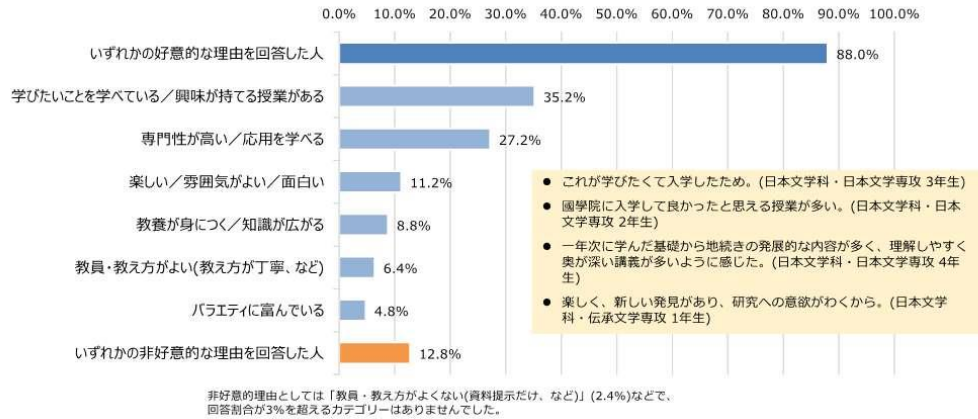
- 「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合は、全体で68.7%であった。
- 学年別では、1年生(70.1%)と3年生(69.6%)で<満足>の割合が約7割であった。
- 学科別では、日本文学科(73.9%)、史学科(75.6%)、哲学科(71.0%)で<満足>の割合が7割を超えている。



学科専門科目満足度理由

Q10-2. Q10-1の回答理由を詳しく記入してください。

- 好意的な理由（88.0%）の主なもの「学びたいことを学べている／興味が持てる授業がある」（35.2%）、「専門性が高い／応用を学べる」（27.2%）などであった。
- 一方、「教員・教え方がよくない(資料提示だけ、など)」など非好意的な理由の回答割合は12.8%であった。



学科専門科目満足度理由

Q10-2. Q10-1の回答理由を詳しく記入してください。

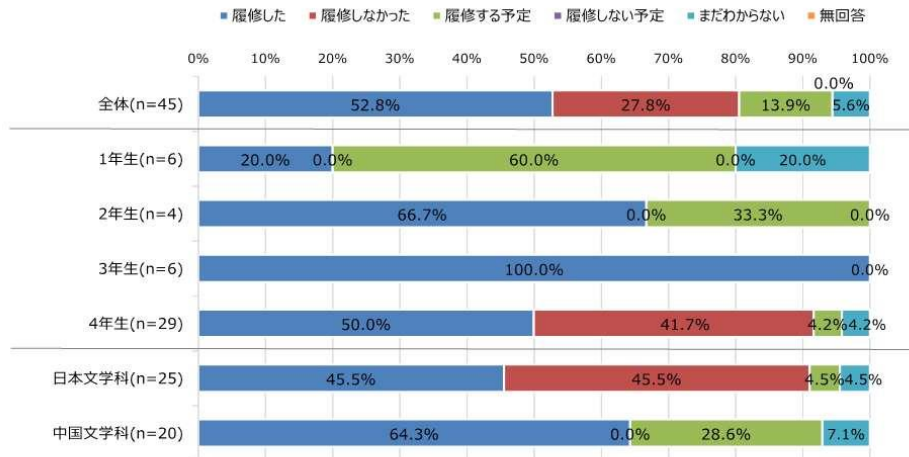
	全体	Q1. 学年				学科				
		1年生	2年生	3年生	4年生	日本文学科	中国文学科	外国語文化学科	史学科	哲学科
ベース：「特になし」を除く有効回答	(125)	(43)	(28)	(35)	(17)	(50)	(3)	(10)	(54)	(8)
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
いずれかの好意的な理由を回答した人	88.0	86.0	85.7	88.6	94.1	92.0	66.7	70.0	90.7	75.0
学びたいことを学べている／興味が持てる授業がある	35.2	27.9	42.9	37.1	35.3	40.0	0.0	40.0	31.5	37.5
専門性が高い／応用を学べる	27.2	34.9	21.4	17.1	35.3	22.0	33.3	20.0	35.2	12.5
楽しい／雰囲気がい／面白い	11.2	11.6	7.1	11.4	17.6	18.0	0.0	10.0	7.4	0.0
教養が身につく／知識が広がる	8.8	4.7	7.1	11.4	17.6	8.0	0.0	20.0	9.3	0.0
教員・教え方がよい(質が高い、教え方が丁寧、など)	6.4	9.3	0.0	8.6	5.9	8.0	0.0	0.0	3.7	25.0
バラエティに富んでいる	4.8	7.0	0.0	8.6	0.0	2.0	0.0	0.0	9.3	0.0
理解できている／わかりやすい	2.4	0.0	3.6	2.9	5.9	2.0	33.3	0.0	1.9	0.0
その他の好意的な理由(単に「満足」など)	3.2	0.0	10.7	2.9	0.0	4.0	0.0	0.0	1.9	12.5
いずれかの非好意的な理由を回答した人	12.8	11.6	21.4	8.6	11.8	10.0	66.7	30.0	7.4	25.0
教員・教え方がよくない(資料提示だけ、など)	2.4	2.3	3.6	0.0	5.9	2.0	0.0	10.0	0.0	12.5
とりたい授業科目がない／取れない／抽選で落ちる	2.4	0.0	7.1	2.9	0.0	2.0	0.0	0.0	1.9	12.5

※全体で2%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

卒業論文履修状況

Q11-1. 【日本文学科(4年生)・中国文学科のみ回答してください】卒業論文は履修しましたか／履修する予定ですか。

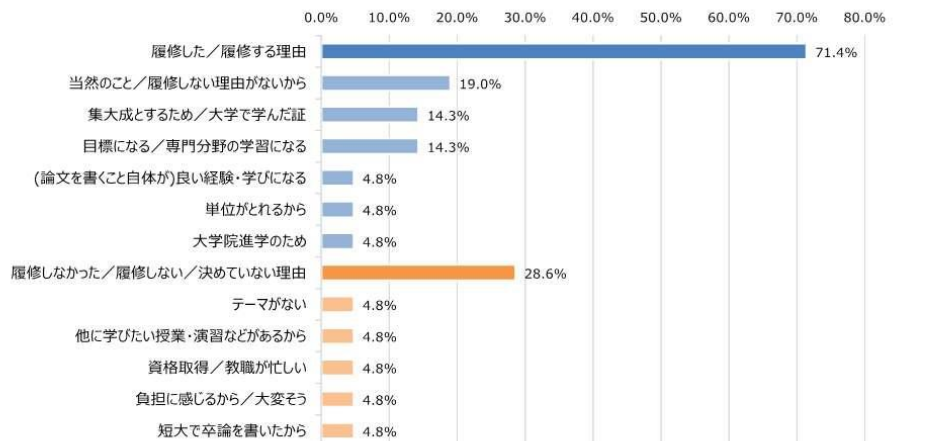
■ 「履修した」が52.8%で最も高く、次いで「履修する予定」が27.8%で、これらを合わせた<履修または履修予定>が66.7%であった。



30

【参考】卒業論文履修状況の理由

Q11-2. 【日本文学科(4年生)・中国文学科のみ回答してください】Q11-1の回答理由を詳しく記入してください。



※3%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

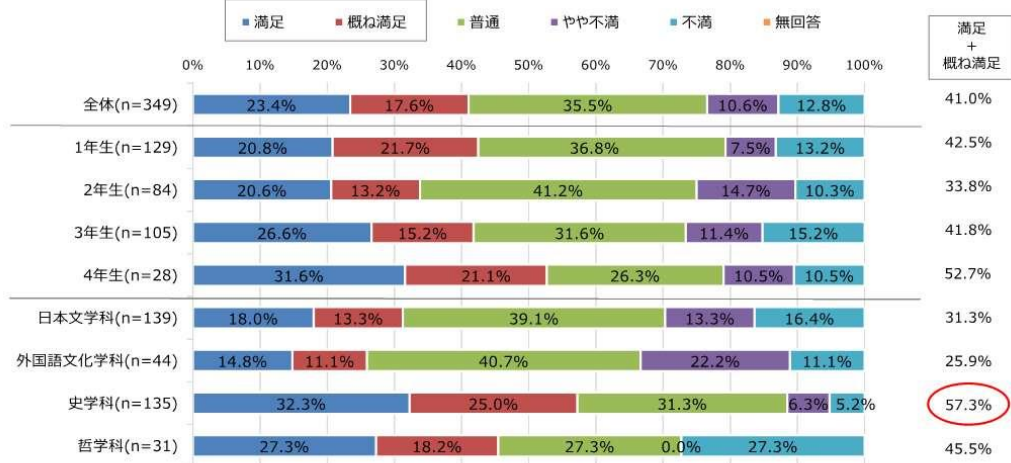
ベース：有効回答(n=21)

31

卒業論文が必修であることについて

Q12-1. 【日本文学科(1～3年生)・外国語文化学科・史学科・哲学科のみ回答してください】卒業論文が必修であることをどのように感じますか。

- 「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合は、全体で41.0%であった。
- 学年別では、4年生で<満足>の割合が最も高く、52.7%であった。
- 学科別では、史学科で<満足>の割合が最も高く、57.3%であった。

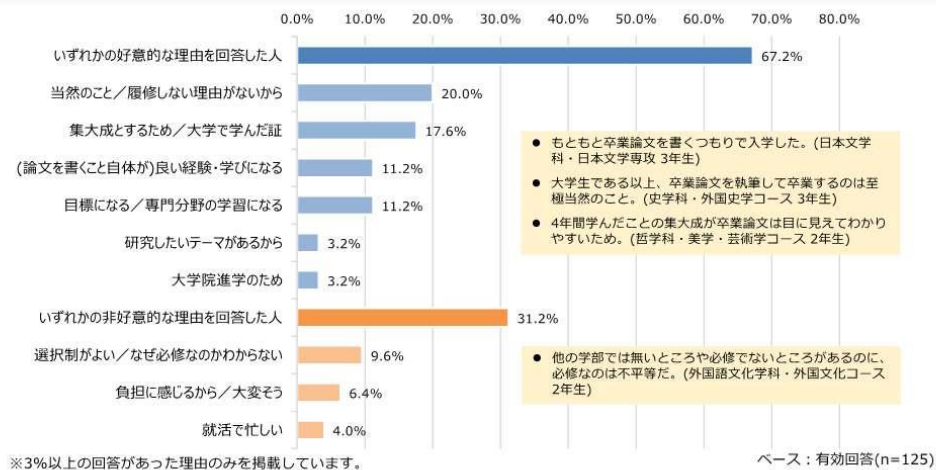


32

卒業論文が必修であることについての評価理由

Q12-2. 【日本文学科(1～3年生)・外国語文化学科・史学科・哲学科のみ回答してください】Q12-1の回答理由を詳しく記入してください。

- 好意的な理由(67.2%)の主なものは、「当然のこと/履修しない理由がないから」(20.0%)、「集大成とするため/大学で学んだ証」(17.6%)などであった。
- 一方、非好意的な理由(31.2%)の主なものは「選択制がよい/なぜ必修なのかわからない」(9.6%)などであった。



33

卒業論文が必修であることについての評価理由

Q12-2. 【日本文学科(1～3年生)・外国語文化学科・史学科・哲学科のみ回答してください】 Q12-1の回答理由を詳しく記入してください。

	全体	Q1. 学年				学科			
		1年生	2年生	3年生	4年生	日本文学科	外国語文化学科	史学科	哲学科
ベース：「特になし」を除く有効回答	(125)	(47)	(32)	(40)	(5)	(57)	(11)	(47)	(9)
	%	%	%	%	%	%	%	%	%
いずれかの好意的な理由を回答した人	67.2	68.1	68.8	62.5	80.0	54.4	72.7	83.0	55.6
当然のことだから／履修しない理由がないから	20.0	10.6	28.1	22.5	40.0	22.8	45.5	12.8	11.1
集大成とするため／大学で学んだ証	17.6	27.7	9.4	15.0	0.0	14.0	9.1	25.5	11.1
(論文を書くこと自体が)良い経験・学びになる	11.2	12.8	12.5	7.5	20.0	10.5	0.0	14.9	11.1
目標になる／専門分野の学習になる	11.2	12.8	9.4	7.5	20.0	5.3	18.2	12.8	22.2
研究したいテーマがあるから	3.2	0.0	6.3	5.0	0.0	0.0	0.0	8.5	0.0
大学院進学のため	3.2	2.1	3.1	5.0	0.0	0.0	0.0	8.5	0.0
いずれかの非好意的な理由を回答した人	31.2	27.7	31.3	37.5	20.0	45.6	18.2	14.9	44.4
選択制がよい／なぜ必修なのかわからない	9.6	6.4	9.4	15.0	0.0	15.8	9.1	2.1	11.1
負担に感じるから／大変そう	6.4	4.3	9.4	7.5	0.0	8.8	0.0	6.4	0.0
就活で忙しい	4.0	2.1	3.1	5.0	20.0	5.3	0.0	2.1	11.1
必要性がない／あってもなくてもよい	2.4	6.4	0.0	0.0	0.0	3.5	0.0	2.1	0.0
卒論についての情報が少ない	2.4	2.1	3.1	2.5	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0
その他の非好意的な評価理由	2.4	2.1	0.0	5.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0

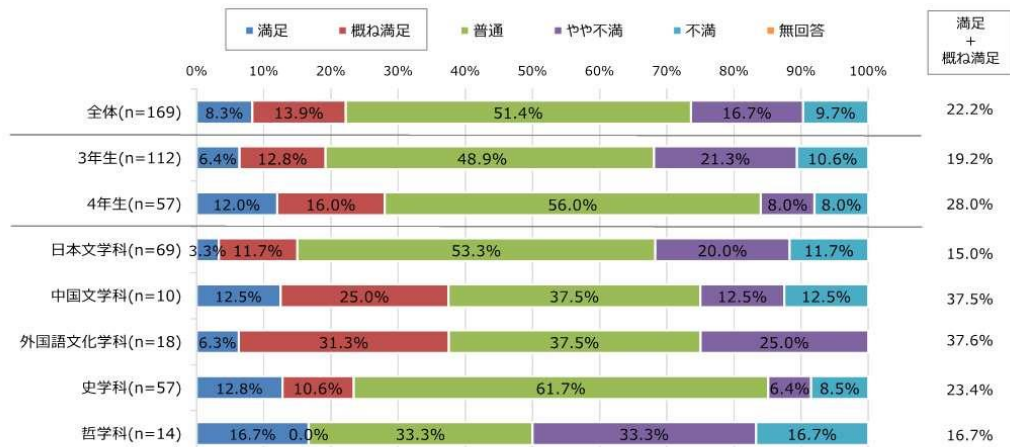
※全体で2%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

34

就職活動を円滑に進めていく観点からの現状満足度

Q13-1. 【3・4年生のみ回答してください】 就職活動を円滑に進めていく観点から、現状をどのように感じていますか

- 「普通」が51.4%、「やや不満」が16.7%で、「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合は、全体で22.2%であった。
- <満足>の割合は、4年生では28.0%であったのに対し、3年生では19.2%であった。

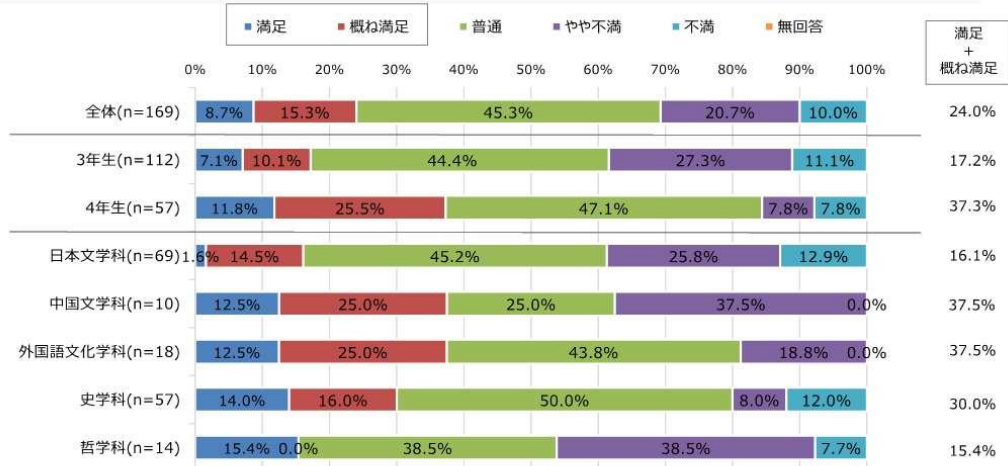


35

大学での学修と就職活動との両立の観点からの現状満足度

Q13-2. 【3・4年生のみ回答してください】大学での学修と就職活動との両立の観点から、現状をどのように感じますか。

- 「普通」が45.3%、「やや不満」が20.7%で、「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合は、全体で24.0%であった。
- <満足>の割合は4年生では37.3%であったのに対して、3年生では17.2%であった。

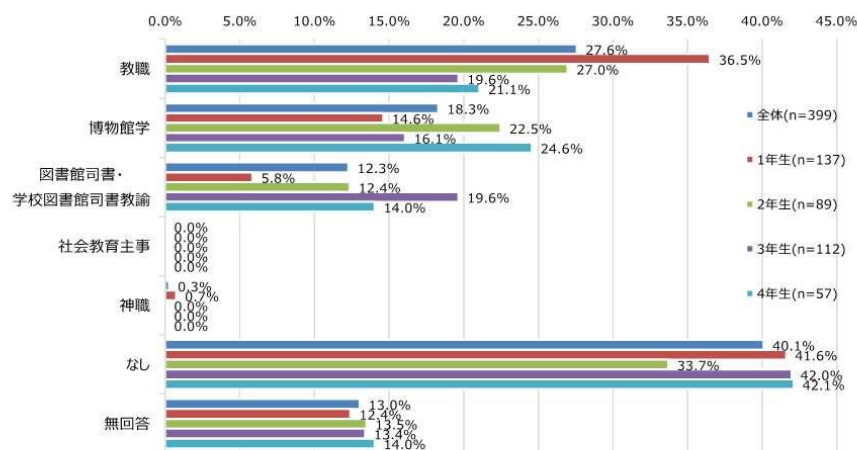


36

履修している教職・資格課程(1)

Q14-1. あなたが履修している教職・資格課程を教えてください。(複数回答可)

- 全体では「教職」が27.6%で最も高く、次いで「博物館学」(18.3%)、「図書館司書・学校図書館司書教諭」(12.3%)の順であった。なお、「なし」は40.1%であった。
- 「教職」を履修している割合は1年生が最も高く36.5%であった。

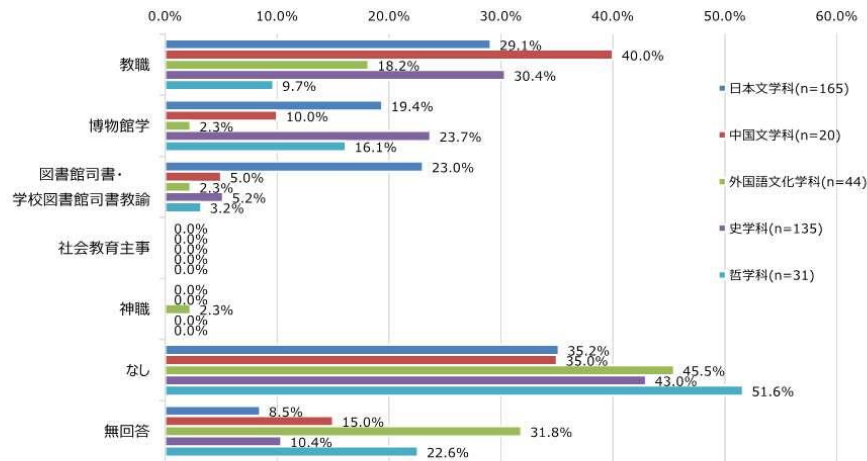


37

履修している教職・資格課程(2)

Q14-1. あなたが履修している教職・資格課程を教えてください。(複数回答可)

- 日本文学科では「教職」が29.1%、「図書館司書・学校図書館司書教諭」が23.0%であった。また、史学科では「教職」が30.4%、「博物館学」が23.7%であった。

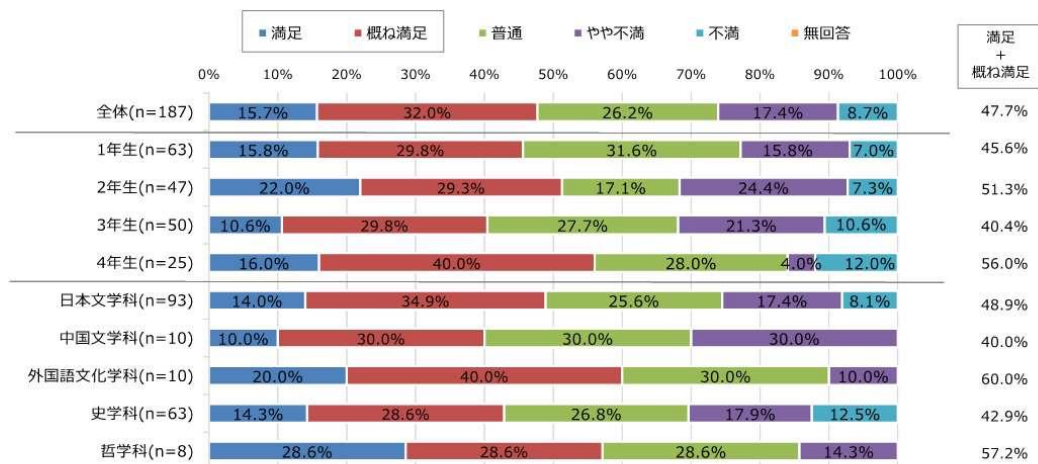


38

教職・資格課程カリキュラム満足度

Q14-2. 【教職・資格課程を履修している方のみ回答してください】 本学の教職・資格課程のカリキュラムについて、どのように感じていますか。

- 「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合は、全体で47.7%であった。
- 学科別の<満足>の割合は、日本文学科が48.9%、史学科が42.9%であった。

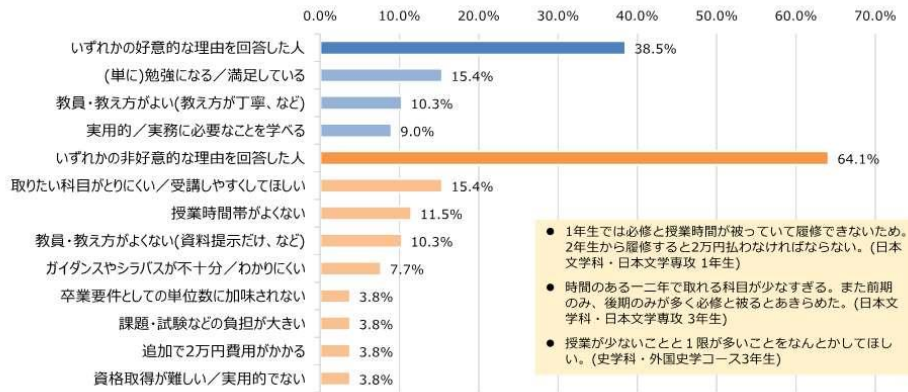


39

教職・資格課程カリキュラム満足度理由

Q14-3. 【教職・資格課程を履修している方のみ回答してください】 Q14-2の回答理由を詳しく記入してください。

- 好意的な理由(38.5%) よりも、非好意的な理由(64.1%)が述べられた割合が高かった。
- 非好意的な理由の主なものは「取りたい科目がとりにくい／受講しやすくしてほしい」(15.4%)、「授業時間帯がよくない」(11.5%) などであった。



※3%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

ベース：有効回答(n=78)

40

教職・資格課程カリキュラム満足度理由

Q14-3. 【教職・資格課程を履修している方のみ回答してください】 Q14-2の回答理由を詳しく記入してください。

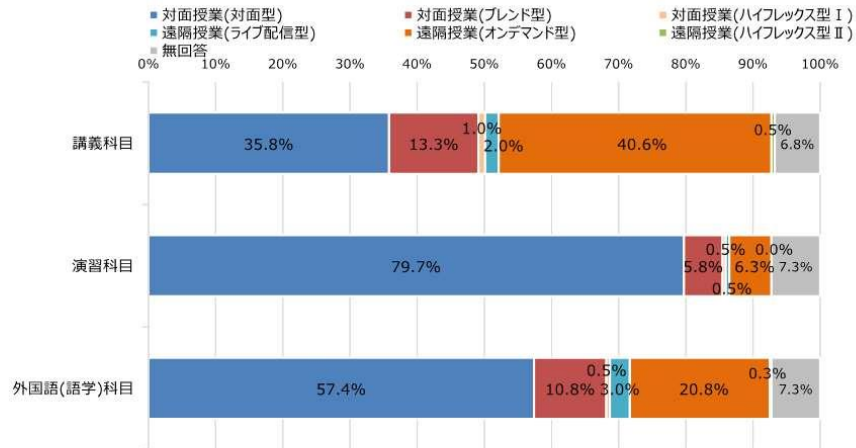
	全体	Q1. 学年				学科				
		1年生	2年生	3年生	4年生	日本文学科	中国文学科	外国語文化学科	史学科	哲学科
ベース：「特になし」を除く有効回答	(78)	(23)	(22)	(21)	(11)	(43)	(4)	(3)	(24)	(3)
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
いずれかの好意的な理由を回答した人	38.5	39.1	31.8	33.3	54.5	44.2	0.0	66.7	29.2	66.7
(単に)勉強になる／満足している	15.4	17.4	9.1	14.3	18.2	18.6	0.0	33.3	12.5	0.0
教員・教え方がよい(質が高い、教え方が丁寧、など)	10.3	8.7	13.6	9.5	9.1	14.0	0.0	0.0	4.2	33.3
実用的／実務に必要なことを学べる	9.0	13.0	9.1	4.8	9.1	4.7	0.0	33.3	12.5	33.3
楽しい／雰囲気がい／面白い	2.6	0.0	0.0	0.0	18.2	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0
いずれかの非好意的な理由を回答した人	64.1	69.6	63.6	66.7	54.5	65.1	100.0	33.3	62.5	33.3
取りたい科目がとりにくい／受講しやすくしてほしい	15.4	17.4	18.2	14.3	9.1	16.3	0.0	33.3	16.7	0.0
授業時間帯がよくない	11.5	8.7	22.7	9.5	0.0	11.6	0.0	0.0	16.7	0.0
教員・教え方がよくない(資料提示だけ、など)	10.3	8.7	9.1	9.5	18.2	9.3	25.0	0.0	12.5	0.0
ガイダンスやシラバスが不十分／わかりにくい	7.7	13.0	4.5	9.5	0.0	7.0	25.0	0.0	4.2	33.3
卒業要件としての単位数に加味されない	3.8	0.0	0.0	9.5	9.1	4.7	0.0	0.0	4.2	0.0
課題・試験などの負担が大きい	3.8	8.7	0.0	4.8	0.0	2.3	25.0	0.0	4.2	0.0
追加で2万円費用がかかる	3.8	4.3	9.1	0.0	0.0	4.7	0.0	0.0	4.2	0.0
資格取得が難しい／実用的でない	3.8	0.0	4.5	0.0	18.2	4.7	0.0	0.0	4.2	0.0
サポート体制がよくない(連絡が遅い、など)	2.6	4.3	0.0	4.8	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	33.3
その他の非好意的な理由	7.7	8.7	9.1	9.5	0.0	9.3	25.0	0.0	0.0	0.0

※全体で2%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

41

適していると感じる授業形式：全体

- 講義科目では「遠隔授業(オンデマンド型)」が4割となっている。
- 演習科目は、全体の8割が「対面授業(対面型)」が適していると答えている。
- 外国語(語学)科目では「対面授業(対面型)」が6割弱、次いで、遠隔授業(オンデマンド型)」が2割、対面授業(ブレンド型)が1割、の順となっている。



ベース：全回答数(n=399)

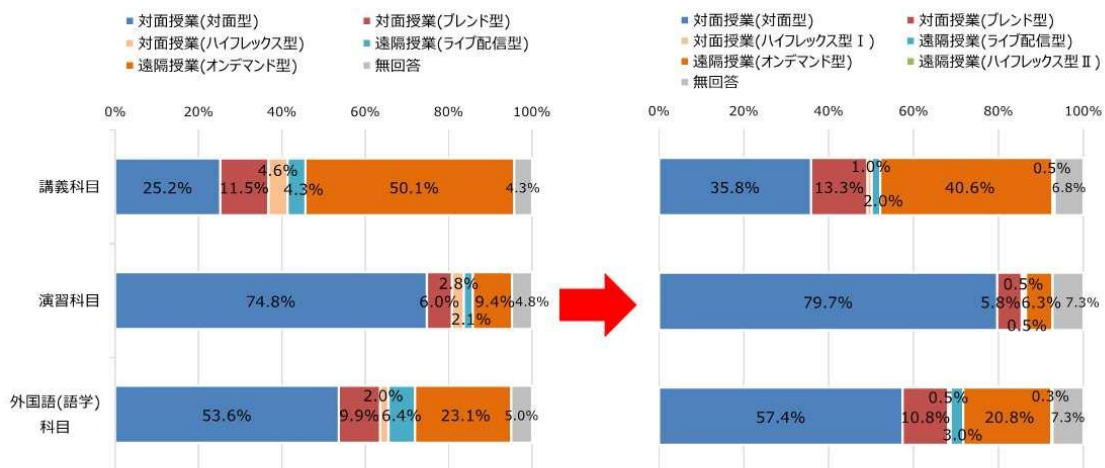
42

適していると感じる授業形式：昨年との比較

- どの科目においても「対面授業(対面型)」の割合が増えてきている。

2022年

2023年

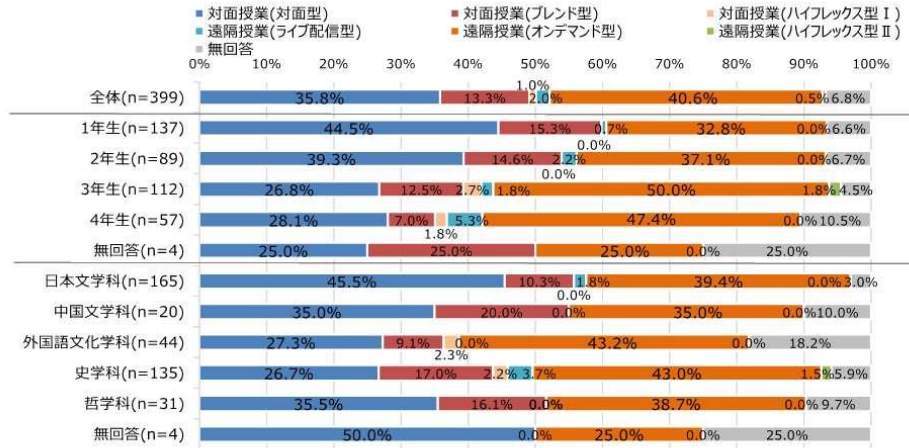


43

『講義科目』に適していると感じる授業形式

Q15-1. 「講義科目」には以下のどの授業形式が適していると感じますか。

- 全体では「遠隔授業(オンデマンド型)」が40.6%で最も高く、次いで「対面授業(対面型)」が35.8%、「対面授業(ブレンド型)」が13.3%であった。
- 学年別で「対面授業(対面型)」の割合が高いのは1年生(44.5%)であった。

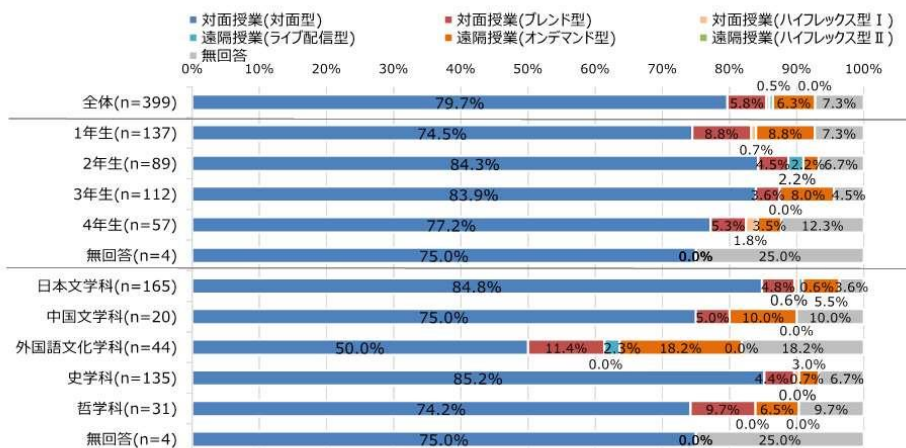


44

『演習科目』に適していると感じる授業形式

Q15-1. 「演習科目」には以下のどの授業形式が適していると感じますか。

- 全体では「対面授業(対面型)」が79.7%で最も高く、次いで「遠隔授業(オンデマンド型)」が6.3%、「対面授業(ブレンド型)」が5.8%であった。
- 学科別で「対面授業(対面型)」の割合が高いのは、日本文学科(84.8%)、史学科(85.2%)であった。

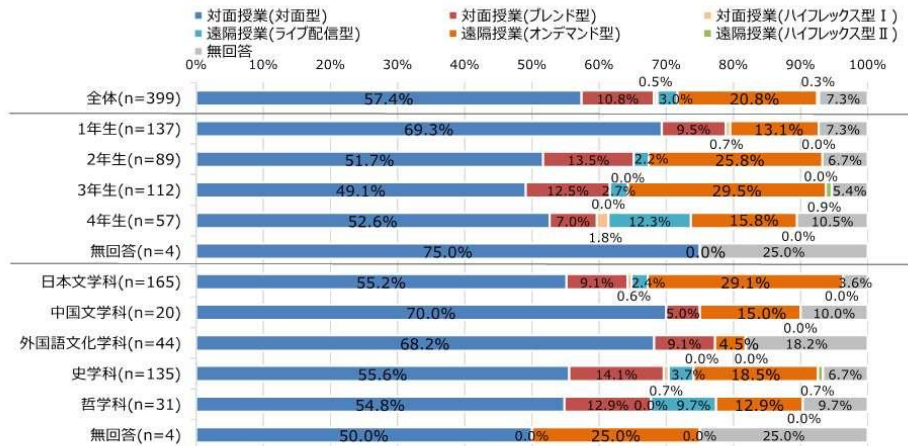


45

『外国語(語学)科目』に適していると感じる授業形式

Q15-1. 「外国語(語学)科目」には以下のどの授業形式が適していると感じますか。

- 全体では「対面授業(対面型)」が57.4%で最も高く、次いで「遠隔授業(オンデマンド型)」が20.8%、「対面授業(ブレンド型)」が10.8%、「遠隔授業(ライブ配信型)」が3.0%であった。
- 学年別で「対面授業(対面型)」の割合が高いのは1年生(69.3%)であった。

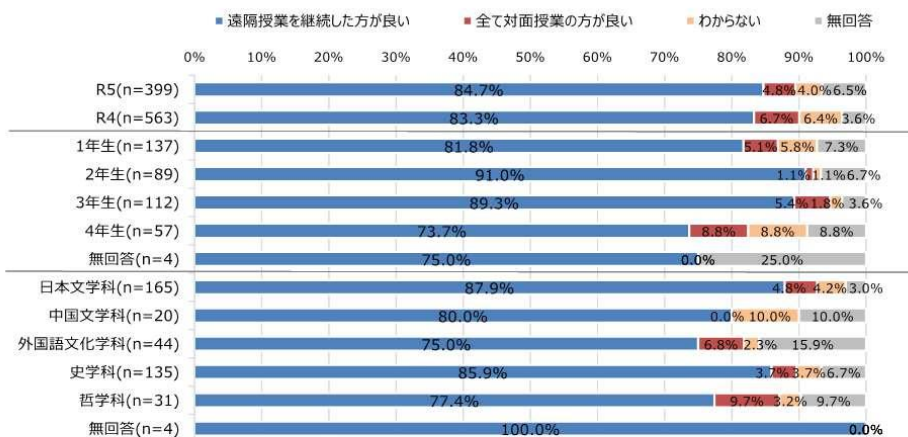


46

遠隔授業は今後も継続した方が良いかどうか

Q15-2. 遠隔授業は、今後も継続した方が良いと思いますか。

- 昨年に続き、全体の8割以上が「遠隔授業を継続した方が良い」と回答している。
- 学年別では、2年生(91.0%)と3年生(89.3%)で「遠隔授業を継続した方が良い」の割合が9割前後となっている。

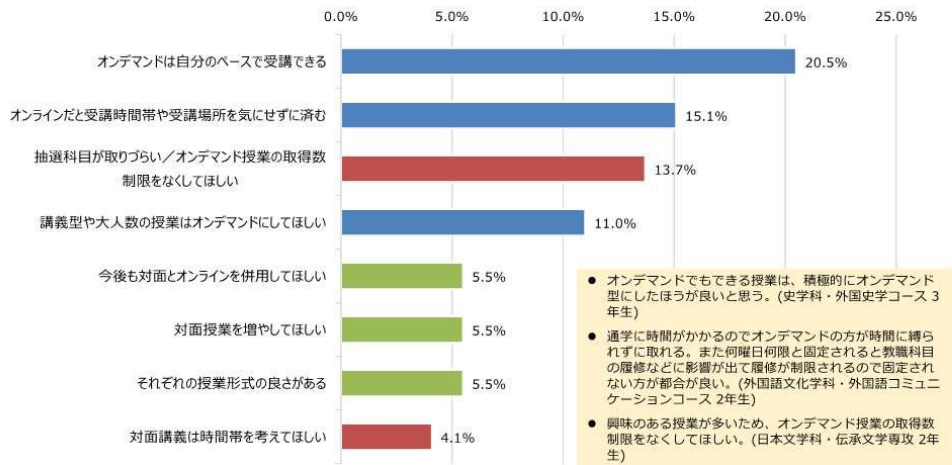


47

授業の形式についての自由意見

Q15-3. 授業の形式についてのご意見があれば具体的に記入してください。

■ 「オンデマンドは自分のペースで受講できる」(20.5%)など、オンデマンドを中心に遠隔授業のメリットや継続を訴える声が多く挙げられた。



- オンデマンドでもできる授業は、積極的にオンデマンド型にしたほうが良いと思う。(史学科・外国史学コース 3年生)
- 通学に時間がかかるのでオンデマンドの方が時間に縛られずに取れる。また何曜日何限と固定されると教職科目の履修などに影響が出て履修が制限されるので固定されない方が都合が良い。(外国語文化学科・外国語コミュニケーションコース 2年生)
- 興味のある授業が多いため、オンデマンド授業の取得数制限をなくしてほしい。(日本文学科・伝承文学専攻 2年生)

授業の形式についての自由意見

Q15-3. 授業の形式についてのご意見があれば具体的に記入してください。

	全体	Q1. 学年				学科				
		1年生	2年生	3年生	4年生	日本文学科	中国文学科	外国語文化学科	史学科	哲学科
ベース：「特になし」を除く有効回答	(73)	(9)	(25)	(26)	(12)	(36)	(1)	(5)	(25)	(6)
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
オンデマンドは自分のペースで受講できる	20.5	0.0	28.0	19.2	25.0	27.8	0.0	0.0	20.0	0.0
オンラインだと受講時間帯や受講場所を気にせずに済む	15.1	0.0	24.0	11.5	16.7	13.9	0.0	20.0	20.0	0.0
抽選科目が取りづらい/オンデマンド授業の取得数制限をなくしてほしい	13.7	11.1	20.0	11.5	0.0	11.1	0.0	60.0	8.0	16.7
講義型や大人数の授業はオンデマンドにしてほしい	11.0	22.2	4.0	15.4	8.3	8.3	0.0	20.0	8.0	33.3
今後も対面とオンラインを併用してほしい	5.5	0.0	8.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0	0.0
対面授業を増やしてほしい	5.5	0.0	0.0	3.8	25.0	5.6	0.0	20.0	4.0	0.0
それぞれの授業形式の良さがある	5.5	11.1	4.0	7.7	0.0	8.3	100.0	0.0	0.0	0.0
対面講義は時間帯を考えてほしい	4.1	0.0	0.0	11.5	0.0	2.8	0.0	0.0	8.0	0.0
ハイフレックス/ブレンド授業を増やしてほしい	2.7	11.1	0.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
講義内容が充実していれば形式は問わない	2.7	22.2	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	16.7
ハイブリッド/ブレンド/ライブ配信はやめてほしい	2.7	0.0	0.0	3.8	8.3	2.8	0.0	0.0	4.0	0.0
その他	11.0	22.2	12.0	7.7	8.3	13.9	0.0	0.0	12.0	0.0

※全体で2%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

② 日本文学科

「① 全体」パートで学科別の図表を掲載していない「満足度の高い／低い科目」と「授業満足度測定に際しての重視度」について報告しています。

50

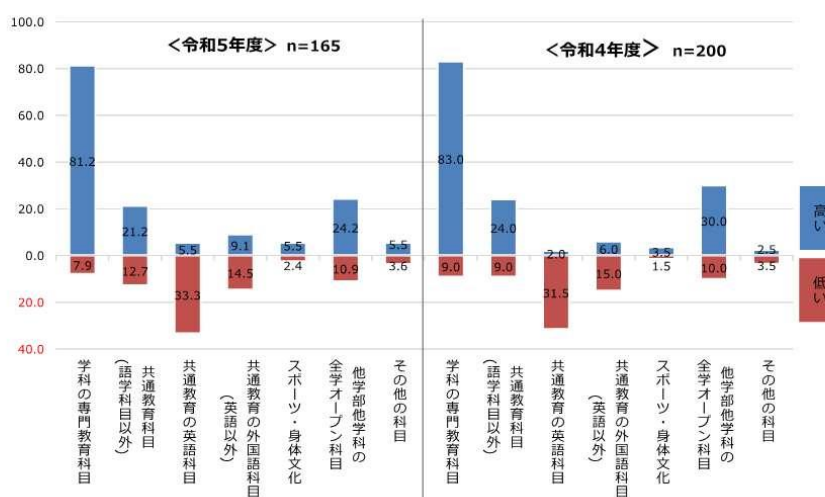
國學院大學

満足度の高い／低い科目－日本文学科

Q5-1. 本学の授業の中で、満足度の高いものはどれですか。(複数回答可)

Q5-2. 本学の授業の中で、満足度の低いものはどれですか。(複数回答可)

■ 『満足度が高い』では「学科の専門教育科目」が81.2%で、『満足度が低い』では「共通教育の英語科目」が33.3%で、それぞれ回答割合が最も高かった。

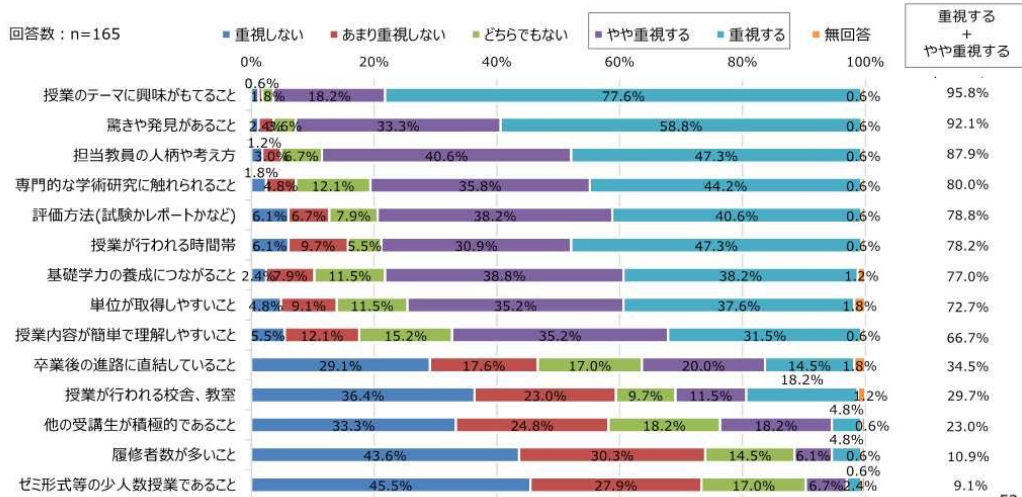


51

授業満足度測定に際しての重視度－日本文学科

Q5-3. 授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どのくらい重視しますか。

- 「重視する」と「やや重視する」を合わせた＜重視する＞割合は、「授業のテーマに興味を持てること」が95.8%で最も高く、次いで「驚きや発見があること」(92.1%)、「担当教員の人柄や考え方」(87.9%)、「専門的な学術研究に触れられること」(80.0%)の順であった。



③ 中国文学科

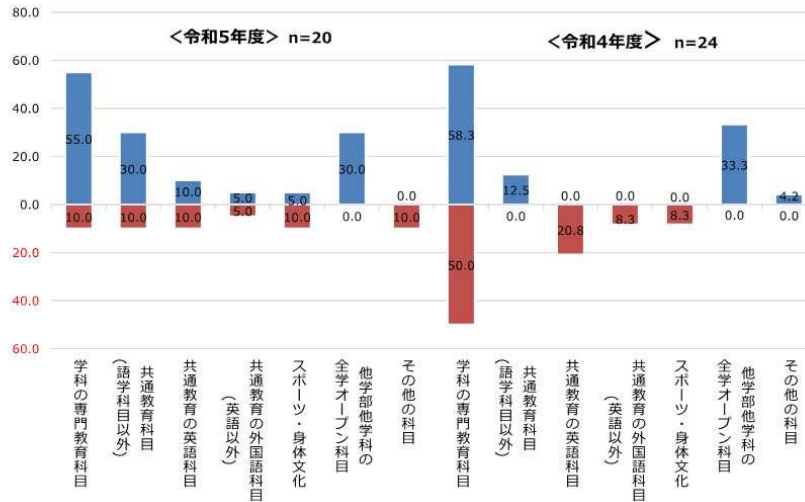
「① 全体」パートで学科別の図表を掲載していない「満足度の高い/低い科目」と「授業満足度測定に際しての重視度」について報告しています。

満足度の高い／低い科目ー中国文学科

Q5-1. 本学の授業の中で、満足度の高いものはどれですか。(複数回答可)

Q5-2. 本学の授業の中で、満足度の低いものはどれですか。(複数回答可)

- 「学科の専門教育科目」が『満足度が高い』(55.0%)で回答割合が最も高かった。

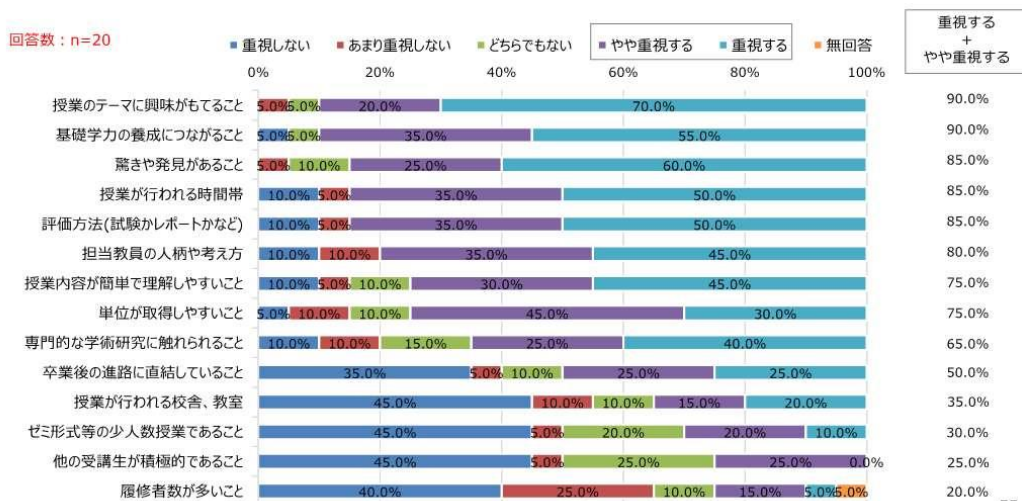


54

授業満足度測定に際しての重視度ー中国文学科

Q5-3. 授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どのくらい重視しますか。

- 「重視する」と「やや重視する」を合わせた<重視する>割合が高いのは、「授業のテーマに興味を持てること」「基礎学力の養成につながること」「驚きや発見があること」「授業が行われる時間帯」「評価方法(試験かレポートかなど)」などであった。



55

④ 外国語文化学科

「① 全体」パートで学科別の図表を掲載していない「満足度の高い／低い科目」と「授業満足度測定に際しての重視度」について報告しています。

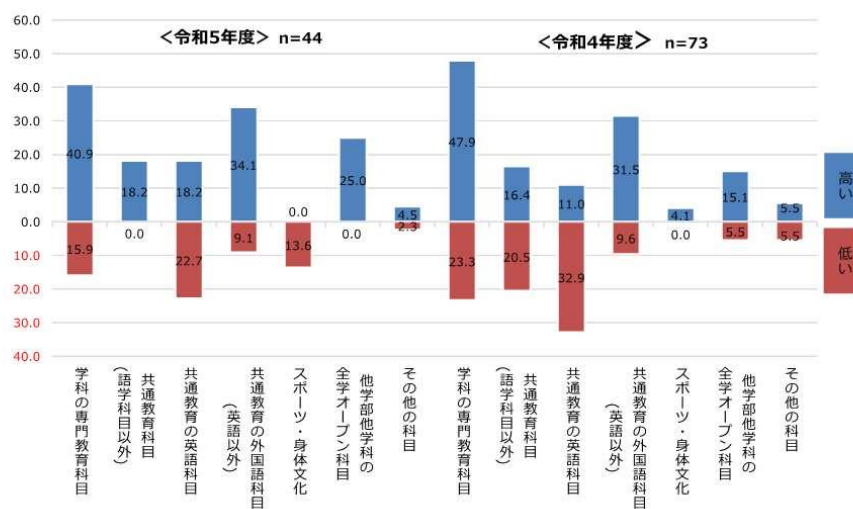
56

満足度の高い／低い科目－外国語文化学科 國學院大學

Q5-1. 本学の授業の中で、満足度の高いものはどれですか。(複数回答可)

Q5-2. 本学の授業の中で、満足度の低いものはどれですか。(複数回答可)

■ 『満足度が高い』では「学科の専門教育科目」が40.9%、『満足度が低い』では「共通教育の英語科目」が22.7%で、それぞれ回答割合が最も高かった。

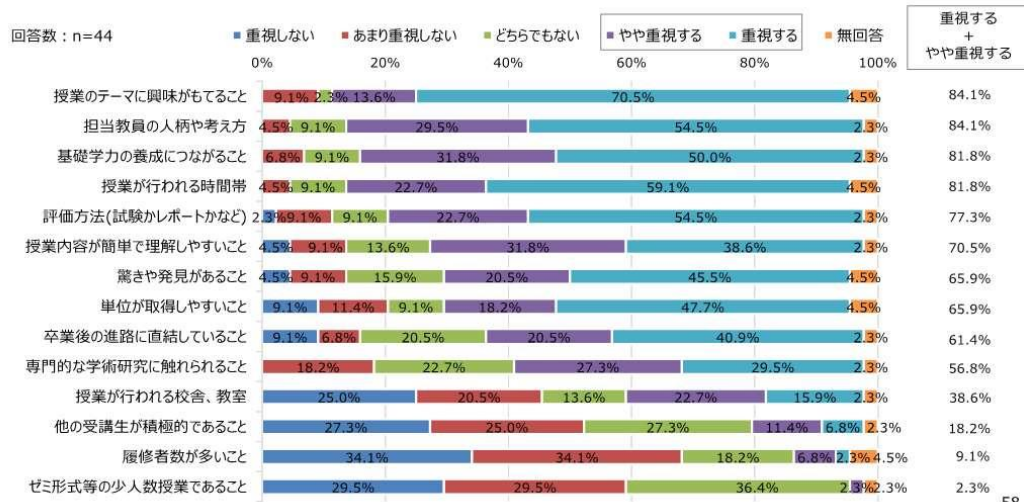


57

授業満足度測定に際しての重視度—外国語文化学科

Q5-3. 授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どのくらい重視しますか。

■ 「重視する」と「やや重視する」を合わせた<重視する>割合が高いのは、「授業のテーマに興味を持てること」「担当教員の人柄や考え方」「基礎学力の養成につながること」「授業が行われる時間帯」などであった。



⑤ 史学科

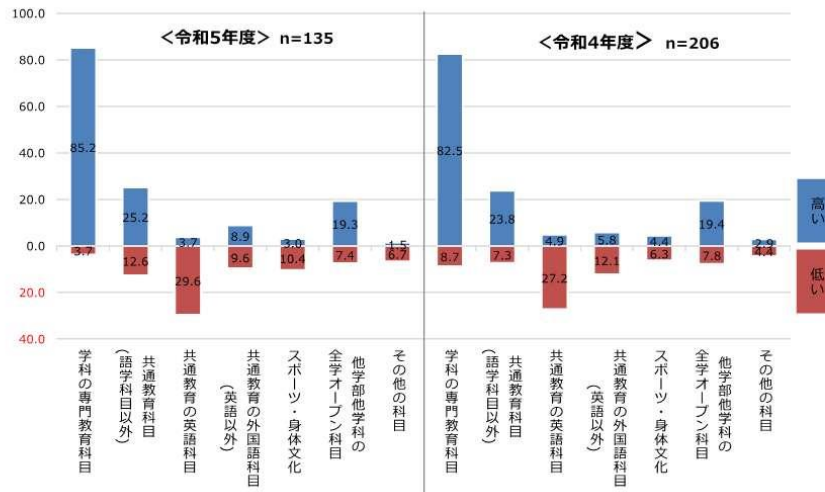
「① 全体」パートで学科別の図表を掲載していない「満足度の高い/低い科目」と「授業満足度測定に際しての重視度」について報告しています。

満足度の高い／低い科目－史学科

Q5-1. 本学の授業の中で、満足度の高いものはどれですか。(複数回答可)

Q5-2. 本学の授業の中で、満足度の低いものはどれですか。(複数回答可)

- 『満足度が高い』では「学科の専門教育科目」が85.2%、『満足度が低い』では「共通教育の英語科目」が29.6%で、それぞれ回答割合が最も高かった。

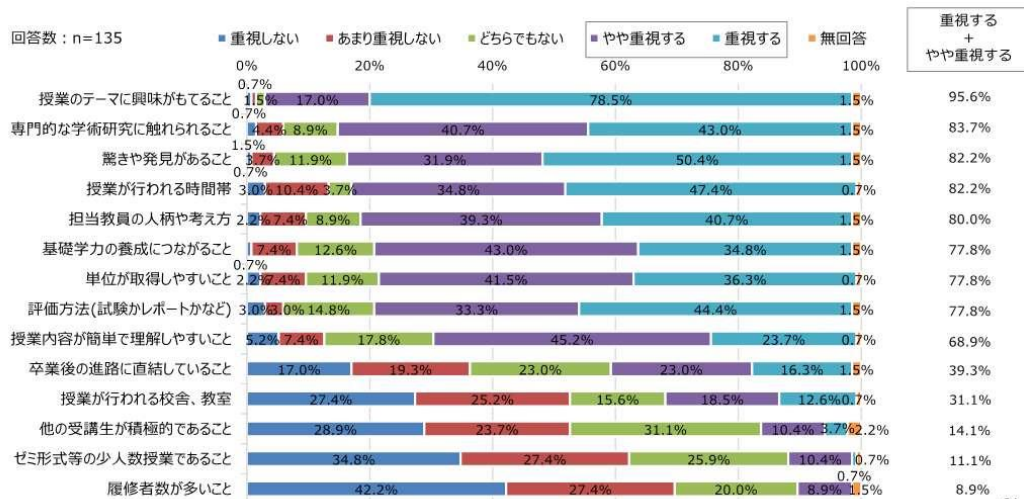


60

授業満足度測定に際しての重視度－史学科

Q5-3. 授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どのくらい重視しますか。

- 「重視する」と「やや重視する」を合わせた<重視する>割合は、「授業のテーマに興味を持てること」が95.6%で最も高く、次いで「専門的な学術研究に触れられること」(83.7%)、「驚きや発見があること」(82.2%)「授業が行われる時間帯」(ともに82.2%)、「担当教員の人柄や考え方」(80.0%)の順であった。



61

⑥ 哲学科

「① 全体」パートで学科別の図表を掲載していない「満足度の高い／低い科目」と「授業満足度測定に際しての重視度」について報告しています。

62

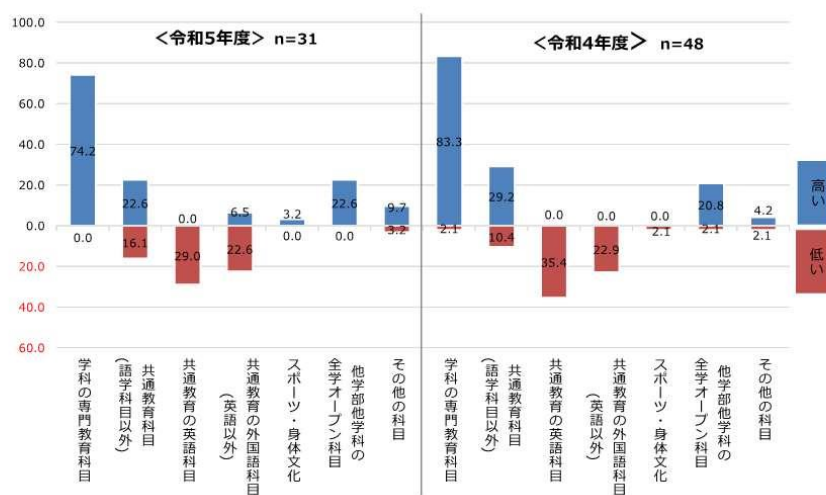
國學院大學

満足度の高い／低い科目－哲学科

Q5-1. 本学の授業の中で、満足度の高いものはどれですか。(複数回答可)

Q5-2. 本学の授業の中で、満足度の低いものはどれですか。(複数回答可)

■ 『満足度が高い』では「学科の専門教育科目」が74.2%、『満足度が低い』では「共通教育の英語科目」が29.0%で、それぞれ回答割合が最も高かった。

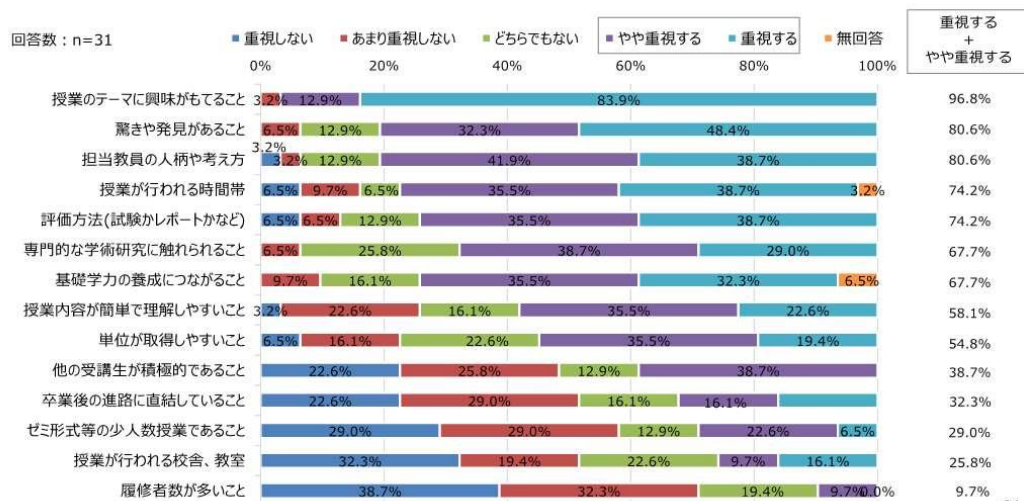


63

授業満足度測定に際しての重視度—哲学科 国学院大学

Q5-3. 授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どのくらい重視しますか。

■ 「重視する」と「やや重視する」を合わせた＜重視する＞割合が高いのは、「授業のテーマに興味を持てること」「驚きや発見があること」「担当教員の人柄や考え方」「授業が行われる時間帯」「評価方法(試験かレポートかなど)」などであった。



参考分析結果

主要項目の経年変化

※「カリキュラム満足度」「授業満足度評価における重視度」「各授業科目の満足度」について、2020～23年度の4年間の推移をみています。

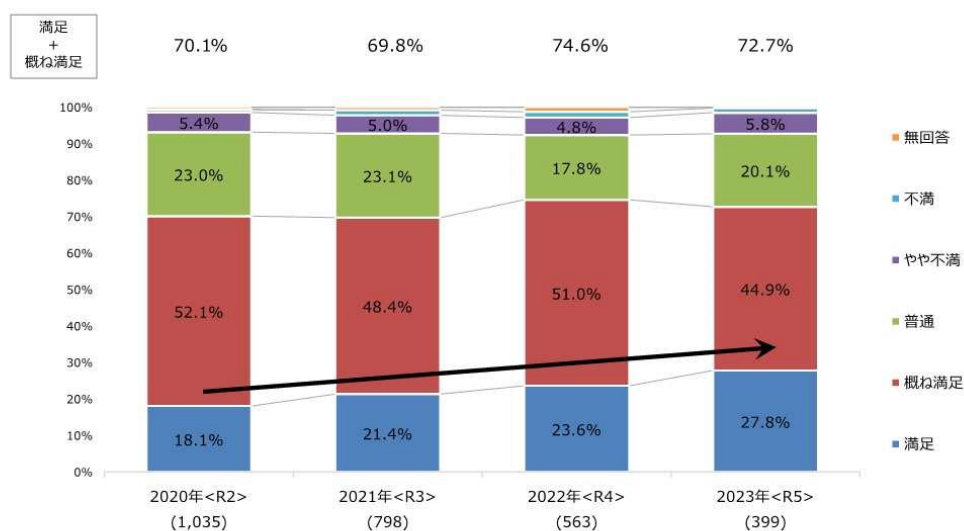
66

國學院大學

カリキュラム満足度の推移：全体

Q4. あなたの所属学科のカリキュラムについて、どのように感じますか。

■ 全体では「満足」の割合が年々上がっている。

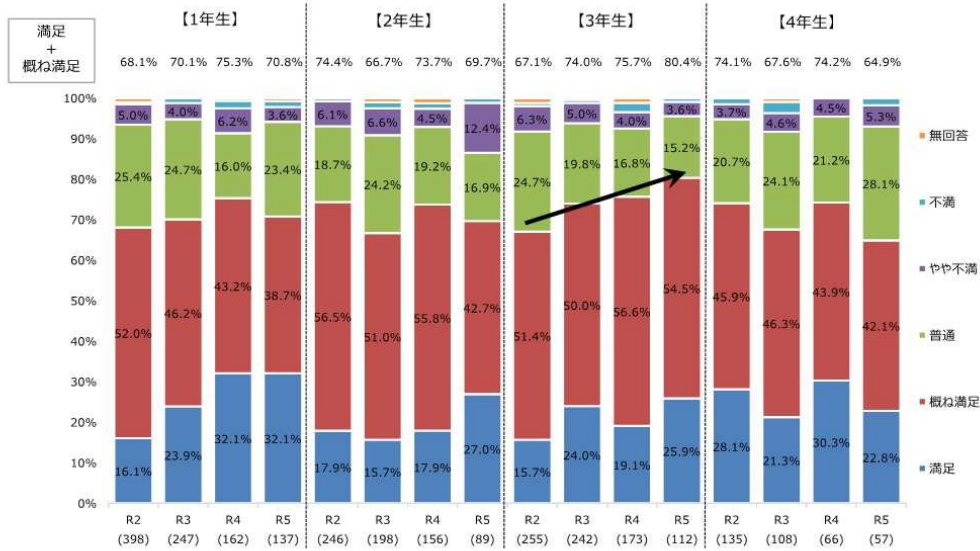


67

カリキュラム満足度の推移：学年別(1)

Q4. あなたの所属学科のカリキュラムについて、どのように感じますか。

■ 3年生では、「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合が上昇傾向。



68

カリキュラム満足度の推移：学年別(2)

Q4. あなたの所属学科のカリキュラムについて、どのように感じますか。

■ 3年生は、1年生、2年生の時よりも「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合が上昇。

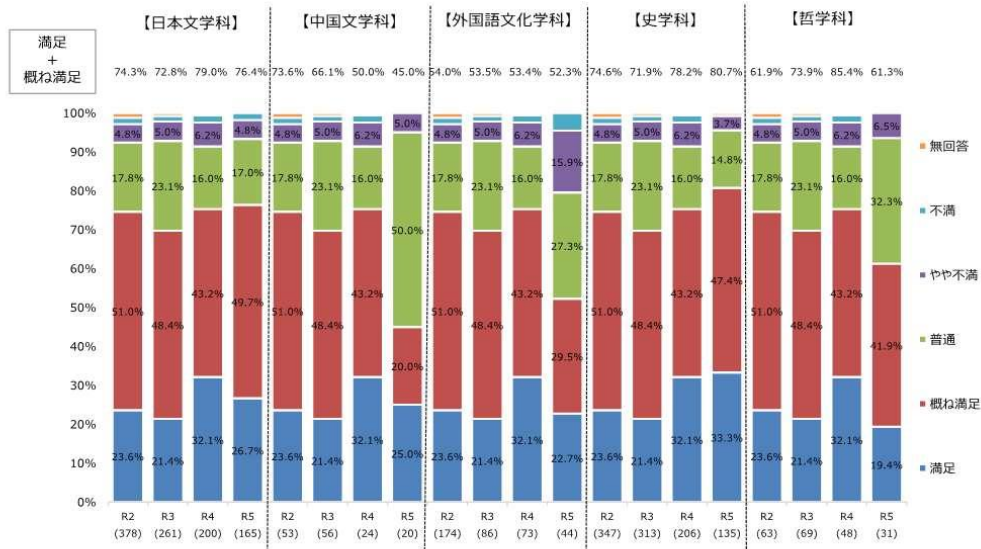


※例えば、今年度の4年生は、昨年度は3年生、一昨年度は2年生、といった具合に、同じ人たちによる評価の推移をみている。

69

カリキュラム満足度の推移：学科別

Q4. あなたの所属学科のカリキュラムについて、どのように感じますか。

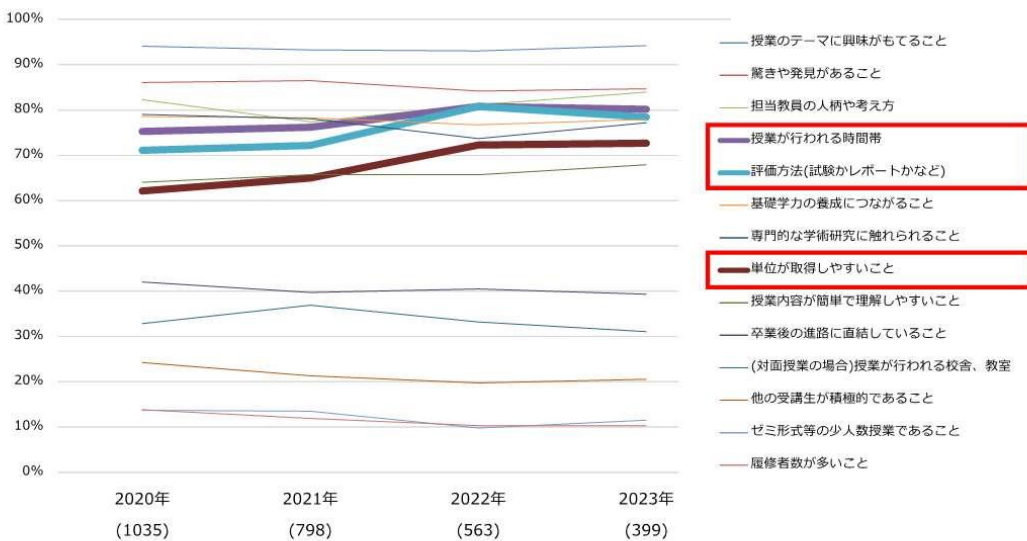


70

授業満足度の重視度の推移：全体

Q5-3. 授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どのくらい重視しますか。

「重視する」+「やや重視する」の割合

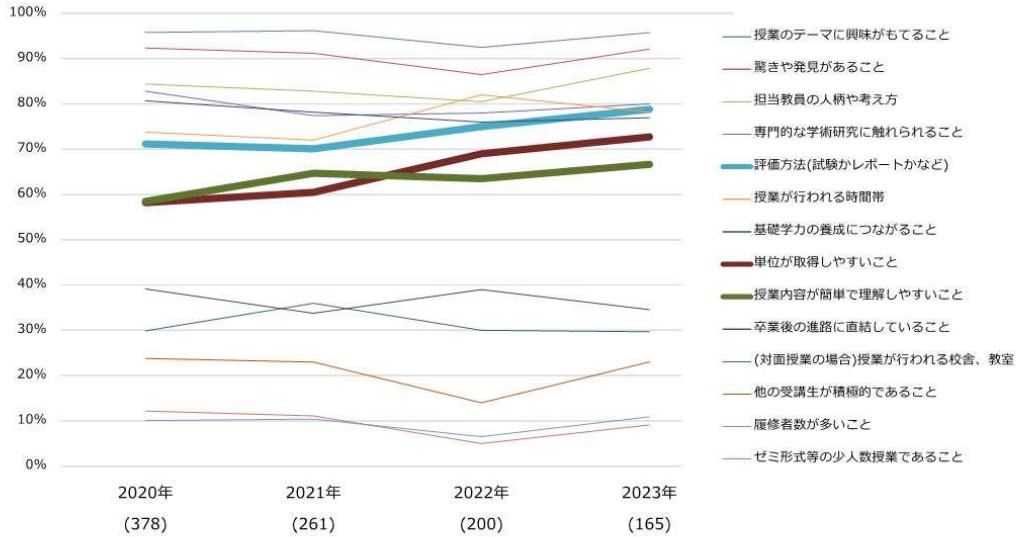


71

授業満足度の重視度の推移：日本文学科

Q5-3. 授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どのくらい重視しますか。

「重視する」+「やや重視する」の割合

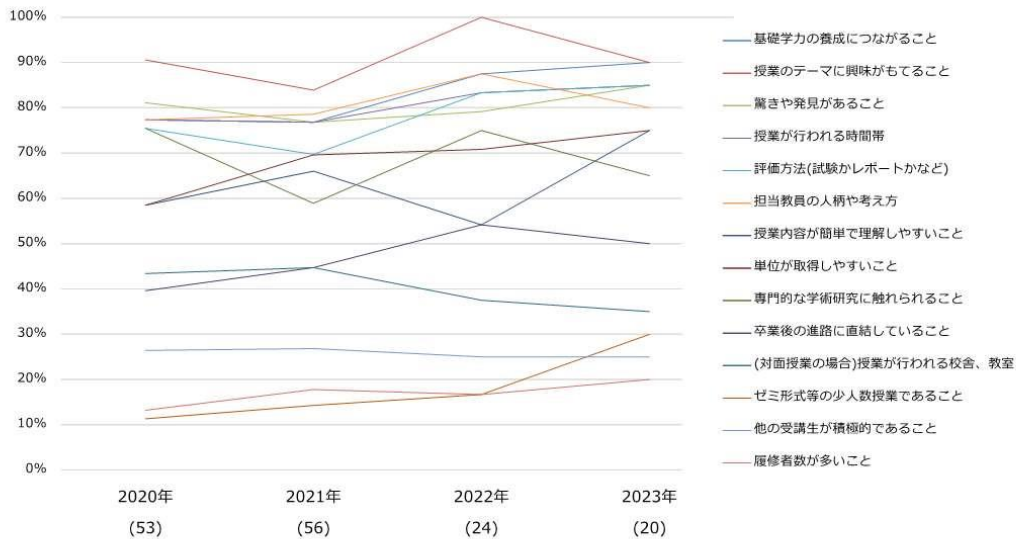


72

授業満足度の重視度の推移：中国文学科

Q5-3. 授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どのくらい重視しますか。

「重視する」+「やや重視する」の割合

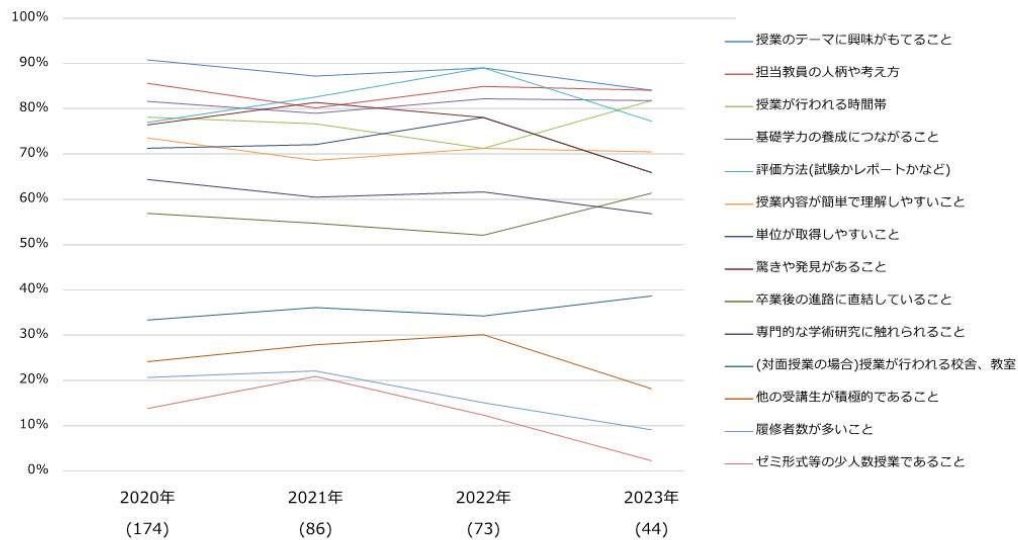


73

授業満足度の重視度の推移：外国語文化学科

Q5-3. 授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どのくらい重視しますか。

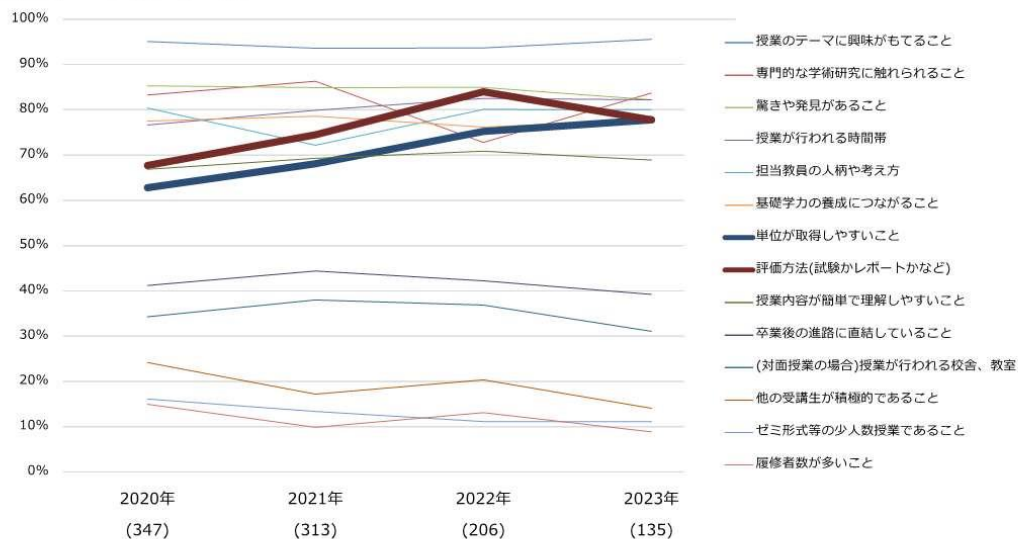
「重視する」+「やや重視する」の割合



授業満足度の重視度の推移：史学科

Q5-3. 授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どのくらい重視しますか。

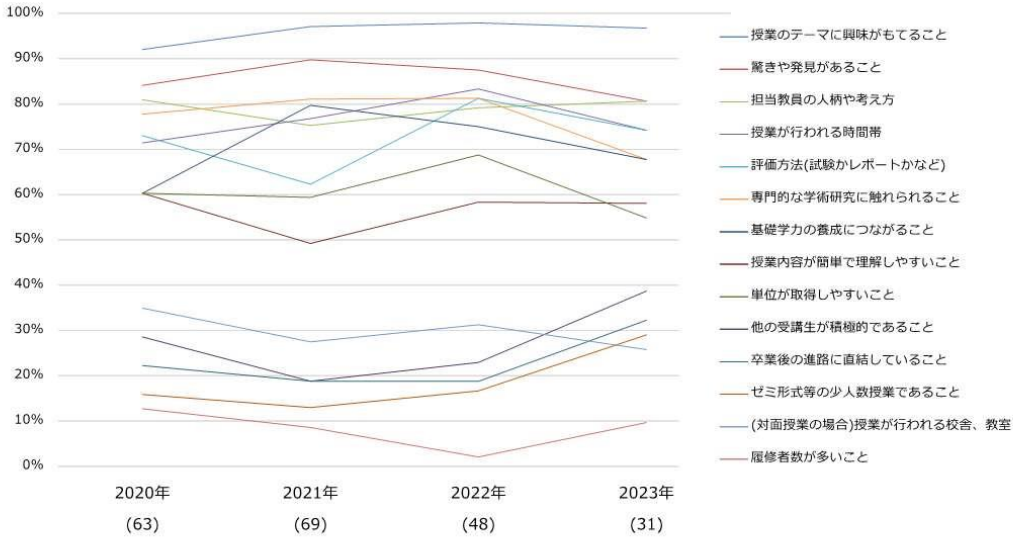
「重視する」+「やや重視する」の割合



授業満足度の重視度の推移：哲学科

Q5-3. 授業の満足度を測定する際、以下の項目を5段階中どのくらい重視しますか。

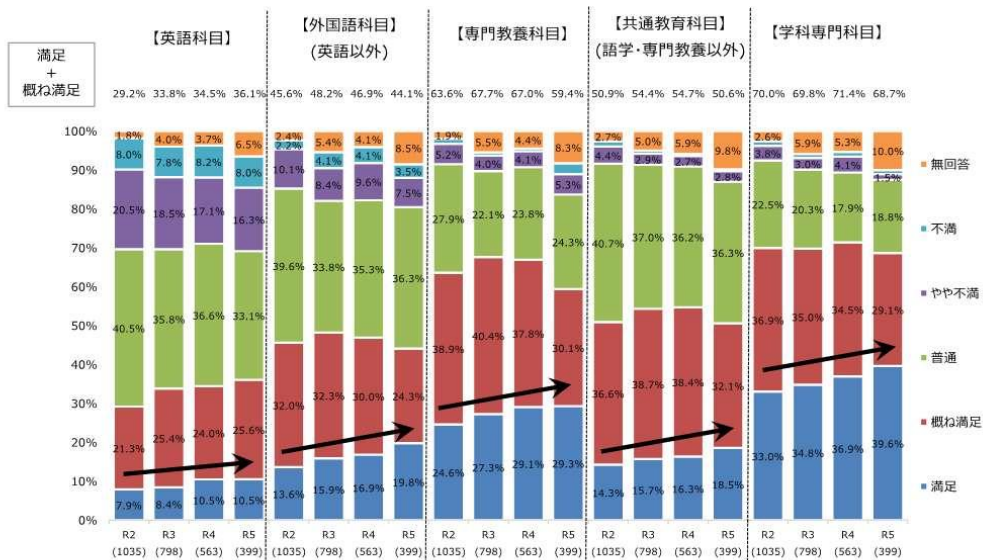
「重視する」+「やや重視する」の割合



76

授業科目別満足度の推移：全体

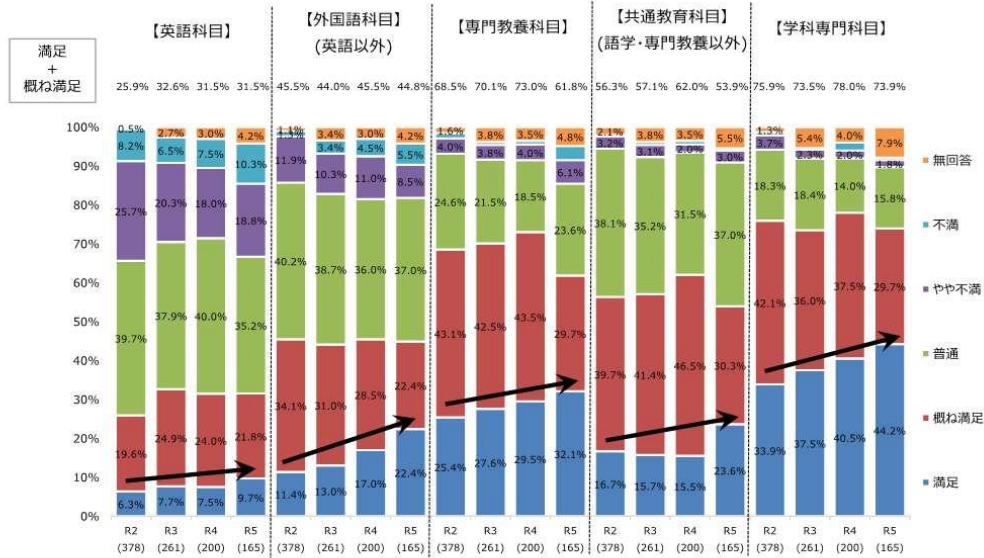
■ 全体では、各科目とも「満足」の割合が上昇傾向。



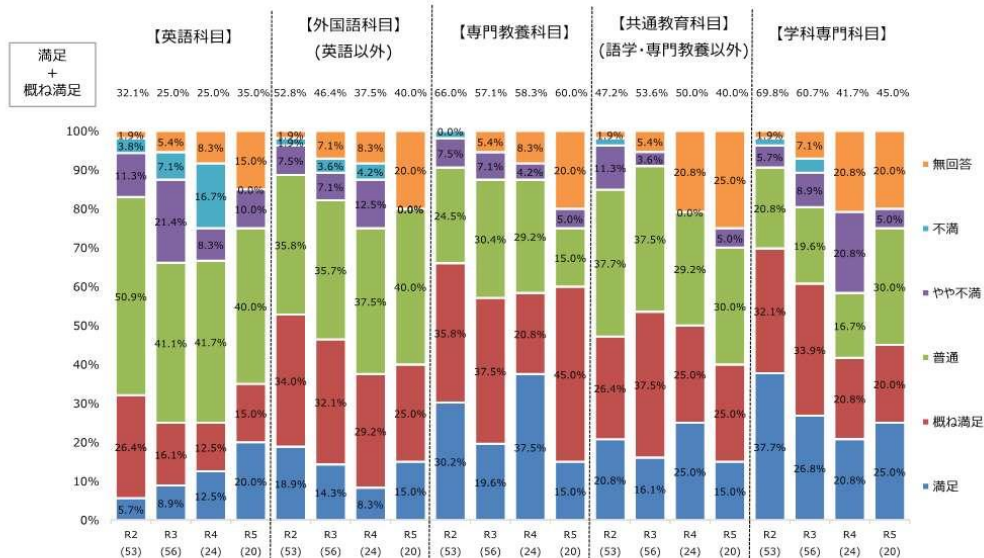
77

授業科目別満足度の推移：日本文学科

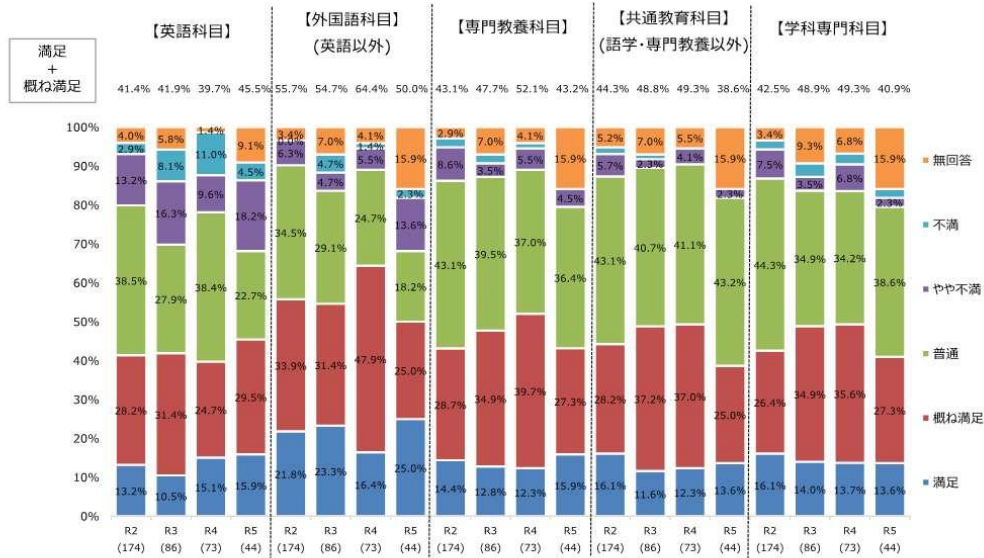
■ 日本文学科では、各科目とも「満足」の割合が上昇傾向。



授業科目別満足度の推移：中国文学科



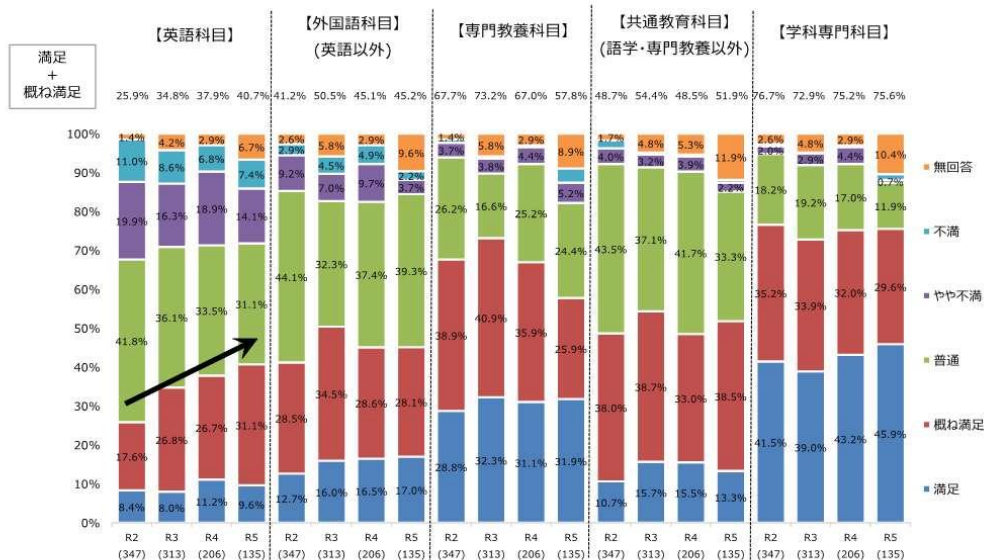
授業科目別満足度の推移：外国語文化学科



80

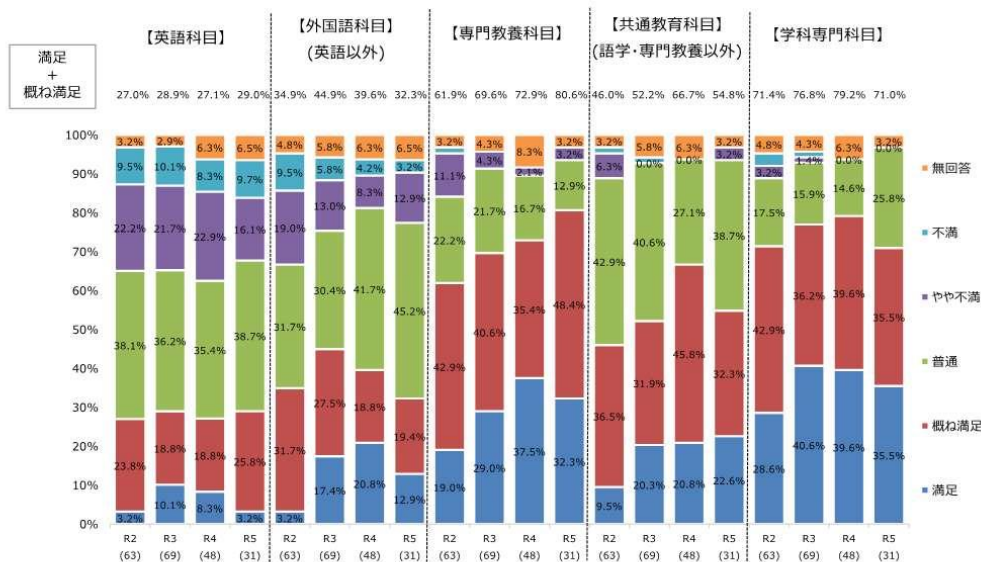
授業科目別満足度の推移：史学科

■ 史学科では、英語科目で「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合が上昇傾向。



81

授業科目別満足度の推移：哲学科



82

授業満足度測定に際しての重視度についてのコレスポンス分析結果

※ コレスポンス分析は、似たもの同士を近くに配置して、関係性を視覚的に把握する分析手法です。

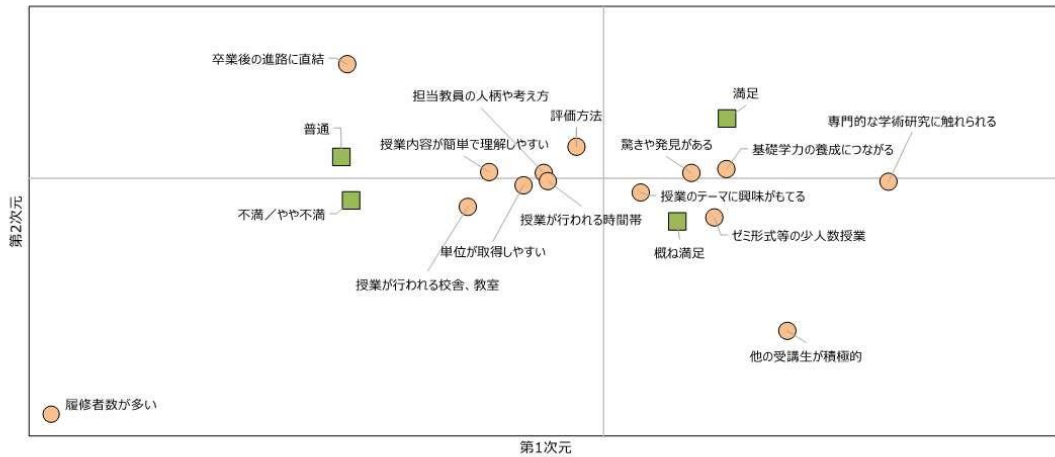
授業満足度測定に際して重視する項目について、所属学科のカリキュラムについての満足度評価別でのコレスポンス分析を行いました。

83

授業満足度測定に際しての重視度－カリキュラム満足度別

- 所属学科のカリキュラムについて「満足」と評価した学生は右上の象限に位置している。
- 重視度測定項目の中では、「専門的な学術研究に触れられる」「基礎学力の養成につながる」などが「満足」評価を特徴づける項目となっているように見受けられる。

※中心(軸の交点)から離れるほど、各評価に特徴的な項目と考えられる。



84

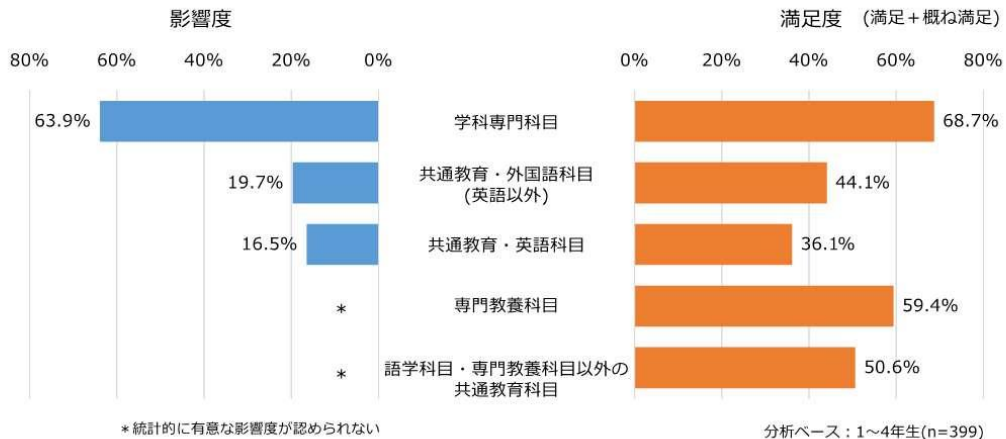
カリキュラム満足度 キードライバー分析

※ 「Q4.カリキュラム満足度」および「Q6/7/8/9/10-1.科目の満足度」の回答データについて重回帰分析を行い、「Q4.カリキュラム満足度」に対する「Q6/7/8/9/10-1.科目の満足度」の影響度を特定しました。

85

カリキュラム満足度キードライバー分析

- 所属学科のカリキュラムの満足度評価に対して「学科専門科目」の影響度が63.9%と、他の科目に比べて圧倒的なキードライバーであることが判明した。
- カリキュラム全体の満足度にとっては、満足度が低めの英語など外国語科目の評価改善もさることながら、影響度の高い「学科専門科目」満足度の維持・向上が重要と考えられる。

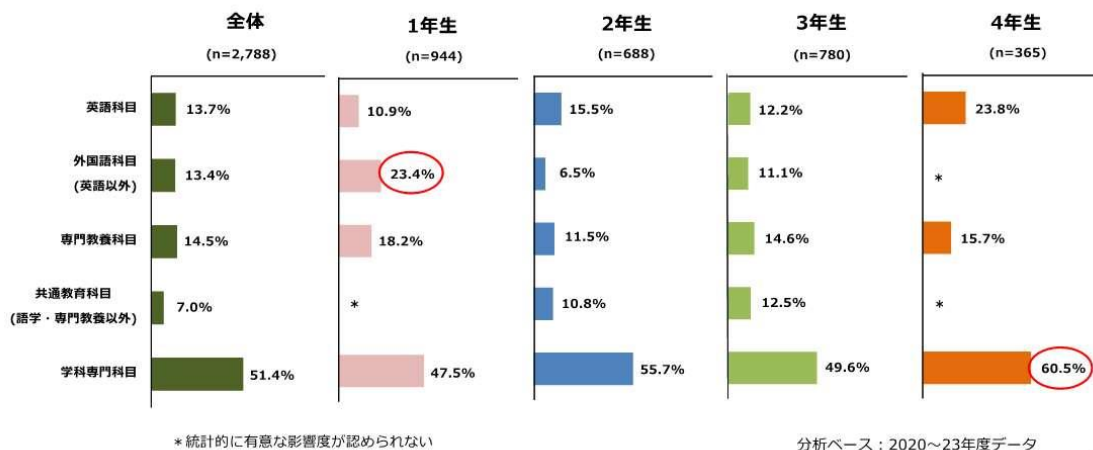


86

カリキュラム満足度キードライバー分析：学年別

- 2020~23年度のデータを統合し、学年別にカリキュラム満足度のキードライバー分析を行った。
- 各学年とも学科専門科目が圧倒的なキードライバーだが、特に4年生では影響度が60.5%と高い。
- 1年生では、英語科目よりも英語以外の外国語科目の方が影響度が高くなっている。

<カリキュラム満足度に対する影響度>

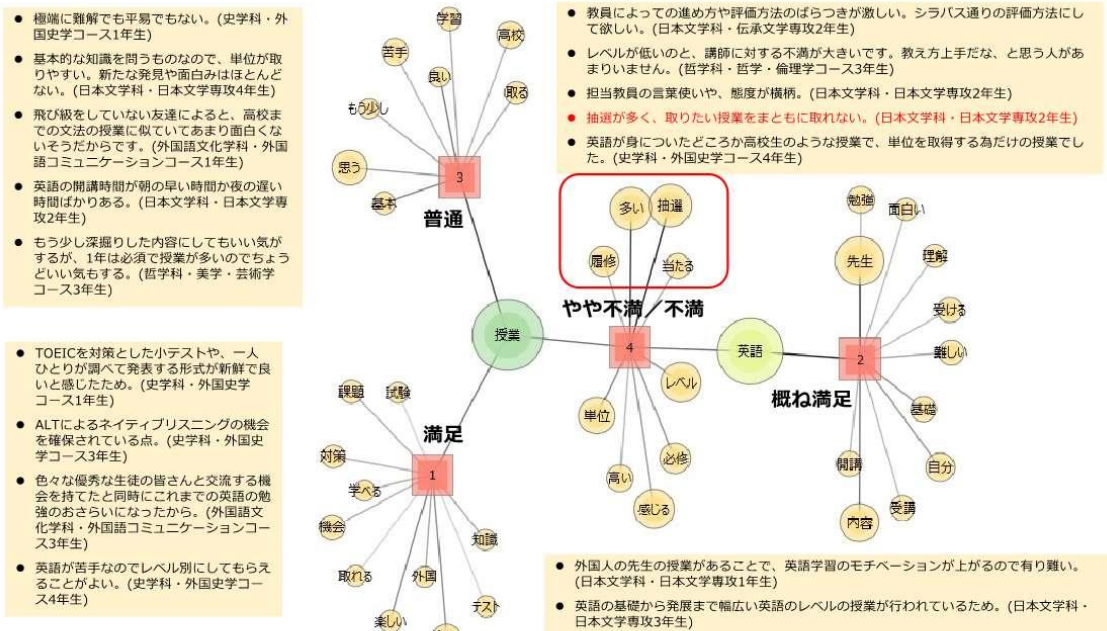


87

満足度理由の共起ネットワーク分析

※ 各科目の満足度理由について共起ネットワーク分析を行いました。
共起ネットワーク分析では、たとえば、「1.満足」と評価した「満足度が高い」学生でよく記述されているキーワードにはどのようなものがあるか、逆に「4.やや不満/不満」と評価した「不満足な」学生で多く記述されているキーワードはどのようなものか、を把握することができます。

Q6.共通教育・英語科目の満足度理由



Q7.共通教育・外国語科目(英語以外)の満足度理由

- 基礎が英語に比べて難しいのでもう少しじっくり基礎に取り組みたい。(史学科・外国史学コース1年生)
- 先生によってや日によっての課題の量の違いが大きい。(外国語文化学科・外国文化コース2年生)
- 一年次しか履修していないが、記憶にあまり残っていないし、今後利用するレベルにはなっていないのは確か。(史学科・外国史学コース2年生)
- オンデマンドで履修できる教材があることが良い。(日本文学科・日本文学専攻2年生)
- 授業の進みが早すぎるうえ沢山指名されるため、毎回苦しさを感じる。(哲学科・哲学・倫理学コース1年生)

- 初歩的な部分を重点的に教えてくださり、基礎をマスターしやすい。(日本文学科・日本文学専攻1年生)
- 先生の教え方が丁寧で人柄も良く、質問にも具体的に答えてくれるから。(日本文学科・日本文学専攻1年生)
- 初心者なので、文法・発音など、基礎から丁寧に教えてくれたのがよかった。(史学科・外国史学コース3年生)
- 第2外国語(中国語)は教員・授業の曜日及び時間帯が選択できたため、履修登録がしやすかった。(史学科・外国史学コース4年生)
- 一年次と同じメンバーで受講することによる外国語に対する不安感がなくなるから。(外国語文化学科・外国語コミュニケーションコース2年生)

- ネイティブの先生に発音を確認してもらうことができる。日常で使う機会が少ないため、よいきっかけになる。(日本文学科・日本文学専攻4年生)
- 英語より専門性があると感じる。(史学科・外国史学コース2年生)
- これまで触れてこなかった外語に触れることで、視野が広がるから。(日本文学科・日本文学専攻3年生)
- 授業以外にも、その土地の風習やエピソードを共有することができ、とても有益だと思っています。(史学科・外国史学コース3年生)

普通 (3)

良い、履修、説明、覚える、スピード、日増

満足 (1)

感じる、触れる、初めて、丁寧、文化、面白い、基礎、先生、教える、言語、楽しい、分かる、外国、学ぶ

概ね満足 (2)

教員、専門、学べる、知る、機会、多い

やや不満/不満 (4)

難しい、文法、英語、進む、内容、レベル、もう少し、必修、高い、思う

90

Q8.専門教養科目の満足度理由

- 文学部だと法学・経済・経営と大分絞られ、どれも苦手かつ興味がない分野のため、講義がつまらない。(中国文学科・中国民俗文化プログラム2年生)
- そもそも履修ができなくて困っている。卒業に必要な単位に含むのであればもっと取れるようにしてほしい。(日本文学科・日本文学専攻1年生)
- 同学部のコースが選べないのは選択の幅が狭い。有効な視座を広げる意味でも隣接した学問の方が良いと思う。(史学科・外国史学コース2年生)
- 専門外の人聞いても興味を持てる内容ではなかった。(日本文学科・伝承文学専攻3年生)

- 専門的な知識を持った先生方から、わかりやすい授業を受けられていると感じるため。(史学科・外国史学コース3年生)
- 年を経るごとに得た知識が役立っているように思うため。(日本文学科・日本文学専攻3年生)
- 就職に活かせる内容が豊富多い科目だから。(史学科・外国史学コース3年生)
- 「國學院の学び」など、國學院でしか学べないことがあるから。日本文化をよく学べる。(日本文学科・日本文学専攻2年生)

- 授業内容への関心は薄いですが、授業の理解に問題はなく、知識として価値があると感じているため。(日本文学科・伝承文学専攻1年生)
- 面白い先生もいるが、伝え方が回りくどい先生が他の科目と比べると多い気がする。(日本文学科・日本文学専攻3年生)
- 文系科目群のみでなく、理系科目も混ぜたパッケージを設定していただきたいです。(史学科・外国史学コース3年生)
- 単位取得のために受講しているものが多く、可もなく不可もないため。(外国語文化学科・外国語コミュニケーションコース1年生)

やや不満/不満 (4)

受ける、広げる、取る、学部、抽象、履修、意味

興味 (1)

満足、楽しい、触れる、自分、学べる、分野、専門、多い、学ぶ

普通 (3)

先生、満足、理解、文化、教養、他、必要、出来る、新しい、知る、感じる

概ね満足 (2)

内容、得る、持つ、関係、知識、面白い

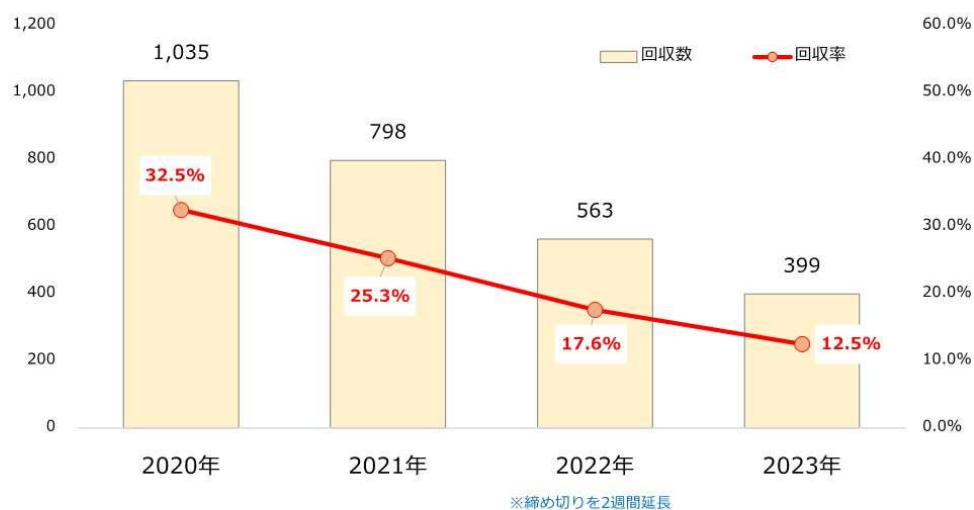
91

回収率の推移

94

回収率の推移：全体

國學院大學



95

回収数の推移：学年別・学科別

■ 各学年、学科とも回収数が減っているが、もともと回収数が多かった学年、学科ほど減少幅が大きい。



96

回収数の推移：学年別(2)

- 4年生は、1年生(2020年)時には398人が回答していたものの、今年度は57人ととどまっている。
- 1年生→2年生、3年生→4年生で大きく減る一方、2年生→3年生は減少幅が小さい傾向がみられる。



97

参考：回収状況



カリキュラムおよび授業 改善の基本方針の検討

文学部教務委員 竹内正彦

令和5年度FD推進助成（甲）事業 成果報告会

文学部の学部FD推進事業の概要（経緯）

- 2014年度から2018年度
文学部独自の授業評価アンケートを実施
- 2019年度
5年分のアンケート結果を分析
- 2019年度以降
その結果を活用しつつ、各学科がカリキュラム改定を開始

文学部の学部FD推進事業の概要（今年度）

- 2020年度から
3か年計画でふたたび文学部独自の授業評価アンケートを実施
今年度は4ヶ年分の経年変化も分析
- アンケートの目的
学生の実態を継続的に把握し、カリキュラムと授業（とその運営）の改善を図るため

文学部の学部FD推進事業の概要（今年度）

- アンケートは2023年10月5日（木）から10月27日（金）まで実施
- 調査対象は文学部全学生（3187人）
- K-SMAPYIIのアンケート機能を使い、完全無記名で実施
- 委託業者（株式会社グループワークス）が結果を分析し、経年変化を含め、調査結果報告書を作成、報告書は各学科の学科会議等を通して文学部の全専任教員と共有
- 調査結果を元に、分析担当者を講師として招聘し、Zoomによるオンライン会議で報告会を教務委員を対象に開催

文学部の学部FD推進事業の概要（今年度）

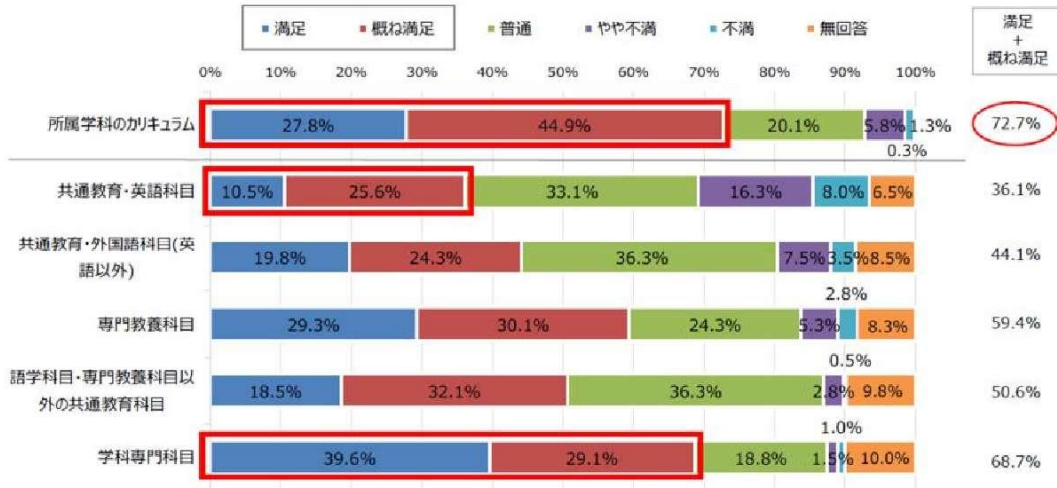
- 最終的な回収数：399（回収率：12.5%）
※参考 2022年度：5638（回収率：17.6%）
- 回答学生の属性
1年生：34.3%、2年生：22.3%
3年生：28.1%、4年生：14.3%

FD活動で得られた結果

- 文学部のカリキュラム全体への学生満足度は高く、「学科専門科目」と「専門教養科目」への学生満足度が特に高い。
- 共通教育科目への満足度は低めで、中でも英語科目への満足度は低い。
- 英語科目以外の外国語科目の満足度の割合は44.1%。
- 語学科目・専門教養科目以外の共通教育科目の満足度の割合は50.6%。

※全体として、満足度の割合は昨年度とほぼ変わらない。

授業科目の満足度一覧

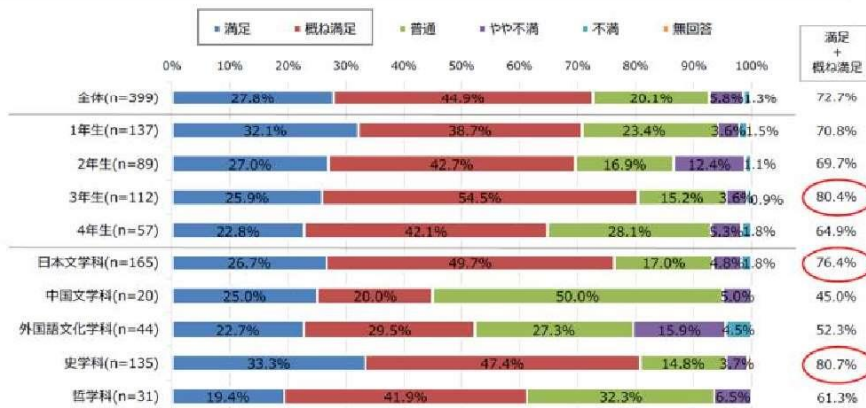


カリキュラム満足度

國學院大學

Q4. あなたの所属学科のカリキュラムについて、どのように感じますか。

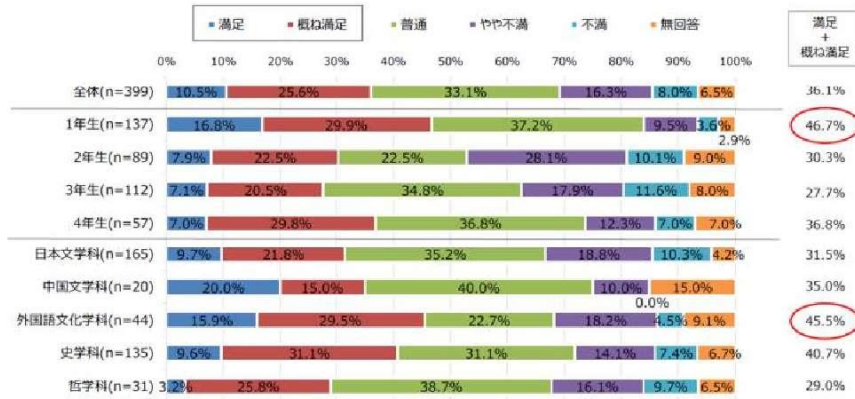
- 学年別では、「満足」の割合は、1年生が32.1%と最も高いが、「概ね満足」を合わせた<満足>の割合では、3年生(80.4%)が最も高い。
- 学科別では、史学科(80.7%)、日本文学科(76.4%)で<満足>の割合が8割前後となっている。



共通教育・英語科目満足度

Q6-1. 共通教育の英語科目をどのように感じますか。

- 「満足」と「概ね満足」を合わせた「満足」の割合は、全体で36.1%であった。
- 学年別では、1年生で「満足」の割合が最も高く、46.7%であった。
- 学科別では、外国語文化学科で「満足」の割合が最も高く、45.5%であった。



共通教育・英語科目満足度理由

Q6-2. Q6-1の回答理由を詳しく記入してください。

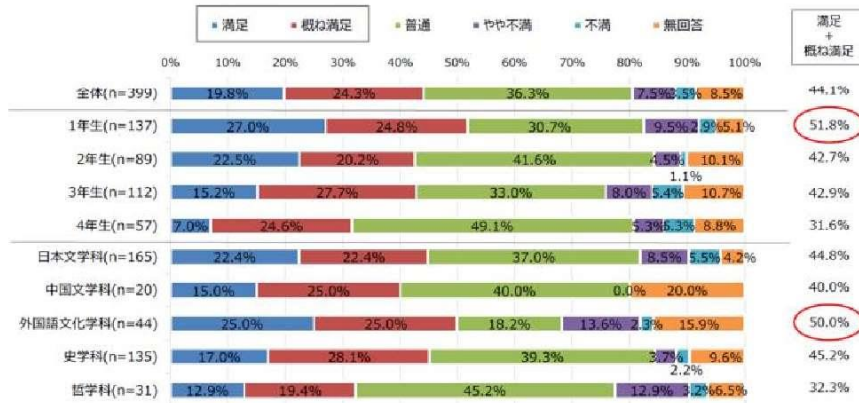
- 自由回答で述べられた英語科目の評価理由をいくつかの類似のカテゴリーに分類(=アフターコーディング)し、回答割合を集計したところ、好意的な理由(39.8%)よりも、非好意的な理由(53.2%)が述べられた割合の方が高かった。非好意的な理由の主なもの「とりたい授業科目がない・取れない/抽選で落ちる」(12.9%)、「実用的でない/効果がない/身に付かない」(9.1%)などであった。



共通教育・外国語科目(英語以外)満足度

Q7-1. 共通教育の外国語科目(英語以外)をどのように感じますか。

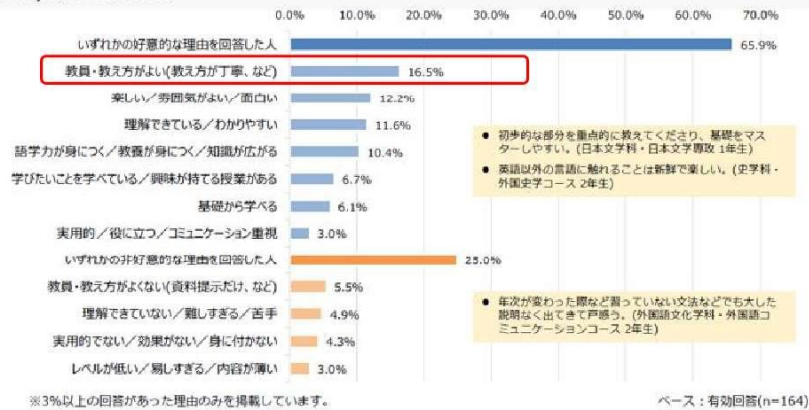
- 「満足」と「概ね満足」を合わせた「満足」の割合は、全体で44.1%であった。
- 学年別では、英語科目と同じく、1年生で「満足」の割合が最も高く、51.8%であった。
- 学科別でも、英語科目と同じく、外国語文化学科で「満足」の割合が最も高く、50.0%となっている。



共通教育・外国語科目(英語以外)満足度理由

Q7-2. Q7-1の回答理由を詳しく記入してください。

- 好意的な理由 (65.9%)の主なものは「教員・教え方がよい(教え方が丁寧、など)」(16.5%)、「楽しい/雰囲気がい/面白い」(12.2%)などであった。
- 一方、非好意的な理由 (25.0%)の主なものは「教員・教え方がよくない(資料提示だけ、など)」(5.5%) などであった。



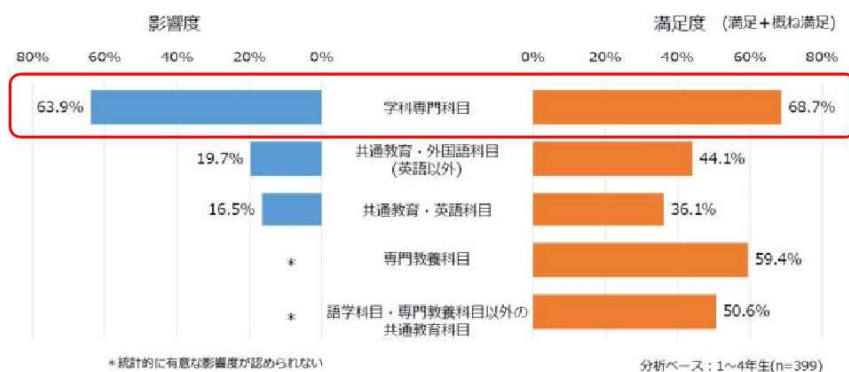
満足度の改善に向けて

- カリキュラム全体の満足度の改善は、満足度が低めな科目（特に共通教育の英語科目）の改善もさることながら、影響度の高い「学科専門科目」の満足度をいかに維持、向上できるか、である。

カリキュラム満足度キードライバー分析

國學院大學

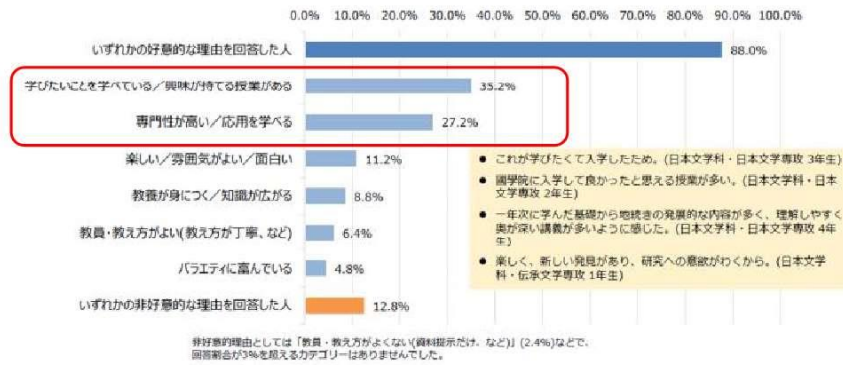
- 所属学科のカリキュラムの満足度評価に対して「学科専門科目」の影響度が63.9%と、他の科目に比べて圧倒的なキードライバーであることが判明した。
- カリキュラム全体の満足度にとっては、満足度が低めの英語など外国語科目の評価改善もさることながら、影響度の高い「学科専門科目」満足度の維持・向上が重要と考えられる。



学科専門科目満足度理由

Q10-2. Q10-1の回答理由を詳しく記入してください。

- 好意的な理由（88.0%）の主なもの「学びたいことを学べている／興味が持てる授業がある」（35.2%）、「専門性が高い／応用を学べる」（27.2%）などであった。
- 一方、「教員・教え方がよくない(資料提示だけ、など)」など非好意的な理由の回答割合は12.8%であった。



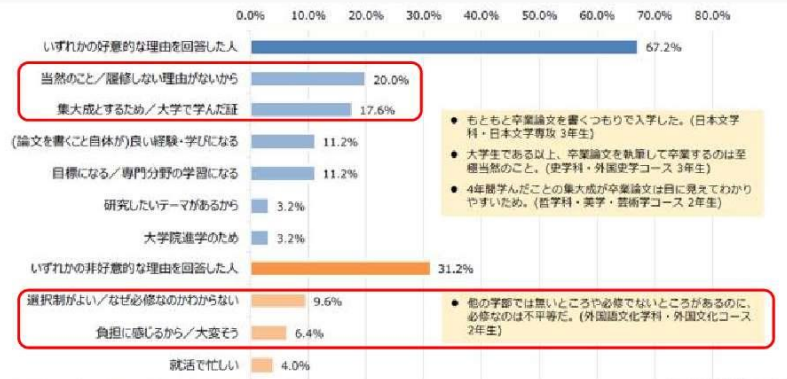
※3%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

ベース：有効回答(n=125)

卒業論文が必修であることについての評価理由

Q12-2. 【日本文学科(1～3年生)・外国語文化学科・史学科・哲学科のみ回答してください】 Q12-1の回答理由を詳しく記入してください。

- 好意的な理由（67.2%）の主なもの「当然のこと／履修しない理由がないから」（20.0%）、「集大成とするため／大学で学んだ証」（17.6%）などであった。
- 一方、非好意的な理由(31.2%)の主なもの「選択制がよい／なぜ必修なのかわからない」（9.6%）などであった。

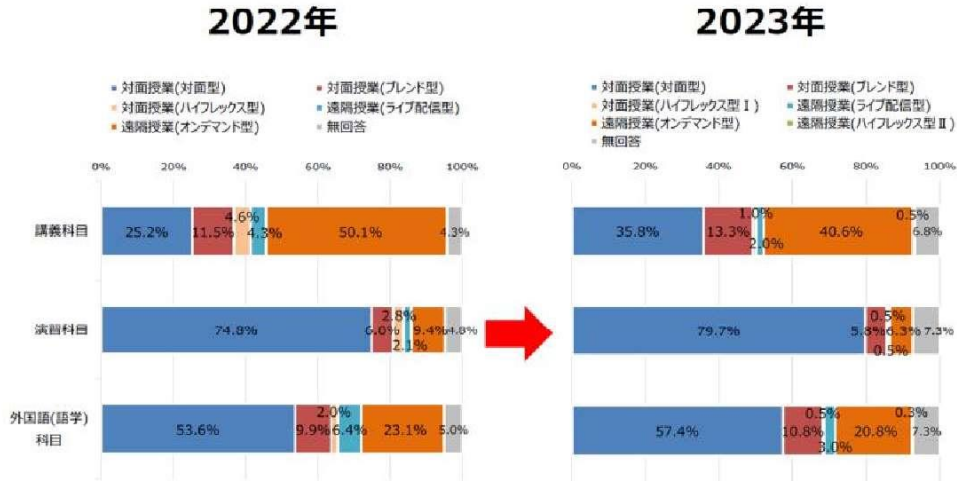


※3%以上の回答があった理由のみを掲載しています。

ベース：有効回答(n=125)

適していると感じる授業形式：昨年との比較

■ どの科目においても「対面授業(対面型)」の割合が増えてきている。



遠隔授業は今後も継続した方が良いかどうか

Q15-2. 遠隔授業は、今後も継続した方が良いと思いますか。

- 昨年に続き、全体の8割以上が「遠隔授業を継続した方が良い」と回答している。
- 学年別では、2年生(91.0%)と3年生(89.3%)で「遠隔授業を継続した方が良い」の割合が9割前後となっている。



主要項目の経年変化

※ 「カリキュラム満足度」「授業満足度評価における重視度」「各授業科目の満足度」について、2020～23年度の4年間の推移をみています。

カリキュラム満足度の推移：全体

國學院大學

Q4. あなたの所属学科のカリキュラムについて、どのように感じますか。

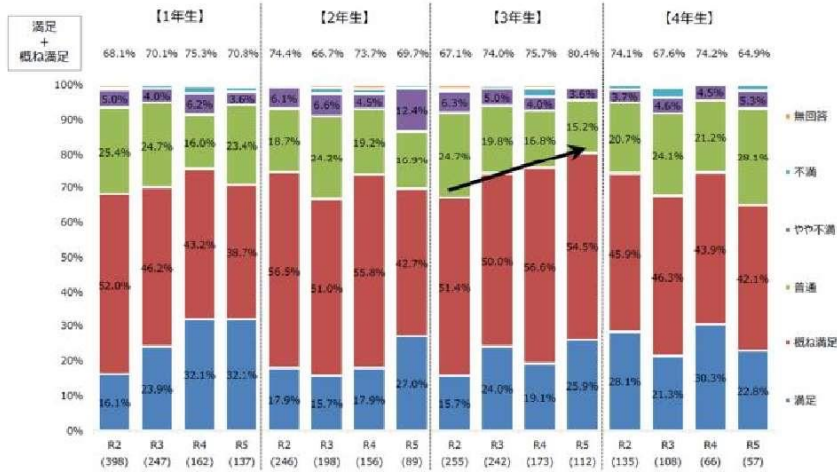
■ 全体では「満足」の割合が年々上がっている。



カリキュラム満足度の推移：学年別(1)

Q4. あなたの所属学科のカリキュラムについて、どのように感じますか。

■ 3年生では、「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合が上昇傾向。



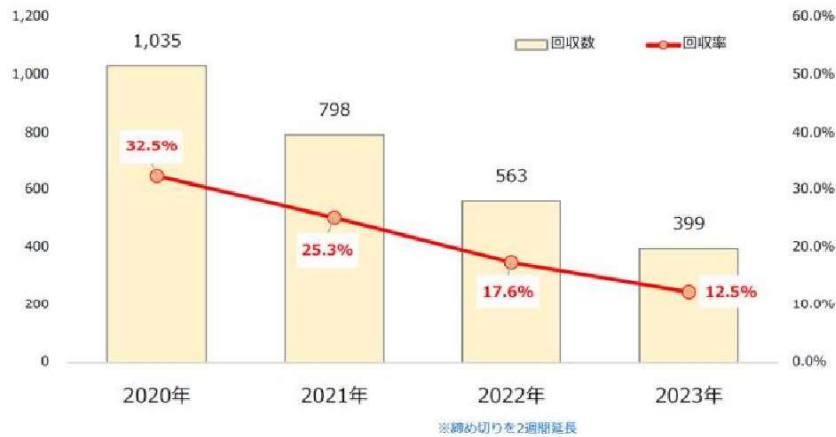
カリキュラム満足度の推移：学年別(2)

Q4. あなたの所属学科のカリキュラムについて、どのように感じますか。

■ 3年生は、1年生、2年生の時よりも「満足」と「概ね満足」を合わせた<満足>の割合が上昇。



※例えば、今年度の4年生は、昨年度は3年生、一昨年度は2年生、といった具合に、同じ人たちによる評価の推移をみている。



今後に向けた課題

- 回収率の低さを改善する必要性。統計上は問題ないと言えるが、信頼性の担保には、最低3割の回収率が必要。
- アンケート実施方法や実施時期の検討。
- 学部を超えた、全学的な分析結果の共有と活用の必要性。
- 改善点を学生に見える化し、フィードバックする必要性。
- データの分析と評価には専門的な知見が必要。
- 学部の一教員が実務を担当することの限界さ。